

(様式第10)

福大病院第121号
平成29年10月5日

厚生労働大臣

殿

学校法人福岡大学
理事長 田中浩二

福岡大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成28年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
氏 名	学校法人福岡大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福岡大学病院

3 所在の場所

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号	電話(092)801-1011
-------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 <input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1 神経内科 2 呼吸器科 3 消化器科 4 循環器科 5 アレルギー科 6 リウマチ科 7		
8 9 10 11 12 13 14		
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
1 形成外科 2 美容外科 3 呼吸器外科 4 心臓血管外科 5 小児外科 6	7	
8	9	10
11	12	13
14		
診療実績		

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1 歯科口腔外科 2	3	4
5	6	7
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 こう門科	2 リハビリテーション科	3 病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
60床	床	床	床	855床	915床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	517人	3.8人	520.8人	看護補助者	66人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	13人	0.1人	13.1人	理学療法士	23人	臨床検査技師	73人
薬 剤 師	63人	1.5人	64.5人	作業療法士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人	その他	0人
助産師	49人	0人	49人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	899人	5.9人	904.9人	臨床工学士	15人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	41人
歯科衛生士	2人	1.9人	3.9人	歯科技工士	1人	事務職員	153人
管理栄養士	14人	0人	14人	診療放射線技師	49人	その他の職員	13人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	32人	眼 科 専 門 医	7人
外 科 専 門 医	37人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	11人	放射線科専門医	13人
小児科専門医	21人	脳神経外科専門医	11人
皮膚科専門医	7人	整形外科専門医	19人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	14人
産婦人科専門医	16人	救急科専門医	8人
		合 計	210人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(井上 亨) 任命年月日 平成27年12月1日

平成27年12月1日より、現在まで医療安全管理委員会委員長として医療安全管理に携わっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	688.0人	7.6人	695.6人
1日当たり平均外来患者数	1,219.5人	50.8人	1,270.3人
1日当たり平均調剤数			1344.7剤
必要医師数			147人
必要歯科医師数			4人
必要薬剤師数			24人
必要(准)看護師数			391人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	358.49 m ²	鉄筋 コンクリート	病床数	14床	心電計	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
			人工呼吸装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	心細動除去装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
			その他の救急生装置	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	ペースメーカー	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 12.80m ² [移動式の場合] 台数 6台		病床数	1床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 16.80m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	307.80m ²	同上	(主な設備) 生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置			
細菌検査室	109.90m ²	同上	(主な設備) 自動血液培養・抗酸菌培養装置、嫌気チャンバー、細胞同定・感受性検査装置			
病理検査室	204.23m ²	同上	(主な設備) 電動マイクローム、自動包埋脱水装置、凍結切片作成機クリオスタット、自動染色装置、遺伝子解析装置			
病理解剖室	132.80m ²	同上	(主な設備) 解剖台、カラー臓器撮影装置、骨切装置			
研究室	5449.16m ²	同上	(主な設備) 超小型カラーテレビ 他			
講義室	372.90m ²	同上	室数	2室	収容定員	400人
図書室	2246.16m ²	同上	室数	3室	蔵書数	132,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	85.6%	逆紹介率	69.8%
算出根拠	A: 紹介患者の数		17,049人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,202人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,807人
	D: 初診の患者の数		23,199人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
石倉 宏恭	福岡大学病院		院内監査委員	有・無	1
田中 芳明	久留米大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
北野 登美子	久留米大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)

3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 病院ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	56		ベーチェット病	48
2	筋萎縮性側索硬化症	10	57	特発性拡張型心筋症	37
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	4
4	原発性側索硬化症	59		拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	19	60	再生不良性貧血	10
6	パーキンソン病	336	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	12	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンチントン病	63		特発性血小板減少性紫斑病	36
9	神経有棘赤血球症	64		血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	1
11	重症筋無力症	85	66	IgA 腎症	8
12	先天性筋無力症候群	67		多発性嚢胞腎	7
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	51	68	黄色靱帯骨化症	10
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	10	69	後縦靱帯骨化症	50
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	14
16	クロー・深瀬症候群	71		特発性大腿骨頭壊死症	54
17	多系統萎縮症	30	72	下垂体性ADH分泌異常症	3
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	51	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	11	74	下垂体性PRL分泌亢進症	7
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	4
22	もやもや病	70	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	21
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	66
24	亜急性硬化性全脳炎	79		家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症	80		甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	15	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27	特発性基底核石灰化症	82		先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	1	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	84		サルコイドーシス	50
30	遠位型ミオパチー	85		特発性間質性肺炎	48
31	ベスレムミオパチー	86		肺動脈性肺高血圧症	2
32	自己食空胞性ミオパチー	87		肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	88		慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	28	89	リンパ脈管筋腫症	10
35	天疱瘡	13	90	網膜色素変性症	16
36	表皮水疱症	91		バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	18	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	ステイーヴンス・ジョンソン症候群	93		原発性胆汁性肝硬変	51
39	中毒性表皮壊死症	94		原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	14	95	自己免疫性肝炎	5
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	124
42	結節性多発動脈炎	7	97	潰瘍性大腸炎	216
43	顕微鏡的多発血管炎	19	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	5	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	10	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャー病	5	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	103		CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	123	104	コストロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	46	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	33	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	13	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	9	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	4	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	1	161 家族性良性慢性天疱瘡	
112 マリネスコ・シェーグレン症候群		162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	3
113 筋ジストロフィー		163 特発性後天性全身性無汗症	
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164 眼皮膚白皮症	
115 遺伝性周期性四肢麻痺		165 肥厚性皮膚骨膜炎	
116 アトピー性脊髄炎		166 弾性線維性仮性黄色腫	
117 脊髄空洞症	1	167 マルフアン症候群	2
118 脊髄髄膜瘤		168 エーラス・ダンロス症候群	
119 アイザックス症候群		169 メンケス病	
120 遺伝性ジストニア		170 オクシピタル・ホーン症候群	
121 神経フェリチン症		171 ウィルソン病	3
122 脳表ヘモジデリン沈着症		172 低ホスファターゼ症	
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173 VATER症候群	
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174 那須・ハコラ病	
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175 ウィーバー症候群	
126 ベリー症候群		176 コフィン・ローリー症候群	
127 前頭側頭葉変性症		177 有馬症候群	
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎		178 モワット・ウィルソン症候群	
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症		179 ウィリアムズ症候群	
130 先天性無痛無汗症		180 ATR-X症候群	
131 アレキサンダー病		181 クルーゾン症候群	
132 先天性核上性球麻痺		182 アペール症候群	
133 メビウス症候群		183 ファイファー症候群	
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184 アントレー・ピクスラー症候群	
135 アイカルディ症候群		185 コフィン・シリス症候群	
136 片側巨脳症		186 ロスマンド・トムソン症候群	
137 限局性皮質異形成		187 歌舞伎症候群	
138 神経細胞移動異常症		188 多脾症候群	
139 先天性大脳白質形成不全症		189 無脾症候群	
140 ドラベ症候群		190 鰓耳腎症候群	
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191 ウェルナー症候群	
142 ミオクロニー欠伸てんかん		192 コケイン症候群	
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193 ブラダー・ウィリ症候群	
144 レノックス・ガストー症候群		194 ソトス症候群	
145 ウエスト症候群		195 ヌーナン症候群	
146 大田原症候群		196 ヤング・シンブソン症候群	
147 早期ミオクロニー脳症		197 1p36欠失症候群	
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198 4p欠失症候群	
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199 5p欠失症候群	
150 環状20番染色体症候群		200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151 ラスムッセン脳炎		201 アンジェルマン症候群	
152 PCDH19関連症候群		202 スミス・マギニス症候群	
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203 22q11.2欠失症候群	
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204 エマヌエル症候群	
155 ランドウ・クレフナー症候群		205 脆弱X症候群関連疾患	
156 レット症候群		206 脆弱X症候群	
157 スタージ・ウェーバー症候群		207 総動脈幹遺残症	
158 結節性硬化症		208 修正大血管転位症	
159 色素性乾皮症		209 完全大血管転位症	
160 先天性魚鱗癬		210 単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
211	左心低形成症候群	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症		
212	三尖弁閉鎖症	260	シトステロール血症		
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	261	タンジール病		
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	262	原発性高カイロミクロン血症		
215	ファロー四徴症	263	脳腫黄色腫症		
216	両大血管右室起始症	264	無βリポタンパク血症		
217	エプスタイン病	265	脂肪萎縮症	1	
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モフト症候群	267	267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	2	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	2
224	紫斑病性腎炎		272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・レノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球病	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症	1	293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病		319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌスてんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科外来診療環境体制加算	・データ提出加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・退院支援加算1
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1 入院基本料)	・退院支援加算2
・特定機能病院入院基本料(精神病棟13対1 入院基本料)	・退院支援加算3
・超急性期脳卒中加算	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・診療録管理体制加算1	・認知症ケア加算1
・医師事務作業補助体制加算(75対1)	・精神科疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算(25対1)※看護補助者5割未満	・精神科急性期医師配置加算
・看護職員夜間12対1配置加算1	・地域歯科診療支援病院入院加算
・看護補助加算2(50対1)	・救命救急入院料1
・療養環境加算	・救命救急入院料4
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料3
・無菌治療室管理加算2	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・精神科身体合併症管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・精神科リエゾンチーム加算	・小児入院医療管理料1
・栄養サポートチーム加算	・植込型除細動器移行期加算
・医療安全対策加算1	・高度難聴指導管理料
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算届含む)	・糖尿病合併症管理料
・患者サポート体制充実加算	・がん性疼痛緩和指導管理料
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・がん患者指導料1
・ハイリスク妊娠管理加算	・がん患者指導料2
・ハイリスク分娩管理加算	・がん患者指導料3
・総合評価加算	・外来緩和ケア管理料
・病棟薬剤業務実施加算1	・移植後患者指導管理料(臓器移植の場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・糖尿病透析予防指導管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・外来放射線照射診療料	・画像診断管理加算2
・ニコチン依存症管理料	・ポジトロン断層撮影
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・CT撮影及びMRI撮影
・薬剤管理指導料	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料2	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・歯科治療総合医療管理料	・外来化学療法加算1
・持続血糖測定器加算	・無菌製剤処理料
・遺伝学的検査	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
・HPV核酸検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
・HPV核酸検査(簡易ジェノタイプ判定)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・運動器リハビリテーション料(Ⅱ)
・国際標準検査管理加算	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
・遺伝カウンセリング加算	・がん患者リハビリテーション料(Ⅰ)
・胎児心エコー法	・リンパ浮腫複合的治療料
・人工膵臓検査、人工膵臓療法	・歯科口腔リハビリテーション料2
・時間内歩行試験	・救急患者精神科継続支援料
・ヘッドアップティルト試験	・精神科作業療法
・神経学的検査	・認知症・認知行動療法2
・補聴器適合検査	・精神科ショート・ケア「大規模なもの」
・コンタクトレンズ検査料1	・精神科デイ・ケア「大規模なもの」
・小児食物アレルギー負荷検査	・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料
・内服・点滴誘発試験	・医療保護入院等診療料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・同種死体肺移植術
・透析液水質確保加算1	・生体部分肺移植術
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・内視鏡下筋層切開術
・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・CAD/CAM冠	・経皮的な中隔心筋焼灼術
・歯科技工加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・組織拡張器による再建術(乳房(再建時手術)の場合に限る(一次、二次再建の場合))	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
・組織拡張器による再建術(乳房(再建時手術)の場合に限る(二次再建の場合))	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・自家培養軟骨	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	・体外衝撃波胆石破碎術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下肝切除術
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・羊膜移植術(学会認定施設書の提出の必要性)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・同種死体腎移植術
・網膜再建術	・生体腎移植術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・膀胱水圧拡張術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1	・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・胃瘻造設術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術	・輸血管管理料(Ⅱ)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・貯血式自己輸血管理体制加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・麻酔管理料(I)	
・麻酔管理料(II)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・直線加速器による定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他)	
・保険医療機関間の連携による病理診断	
・病理診断管理加算(1)	
・クラウン・ブリッジ維持管理料	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	・
・食道アカラシア等に対する経口内視鏡的筋層切開術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	腫瘍・血液感染症内科、泌尿器、消化器外科、脳神経外科、呼吸器外科との病理臨床カンファレンスに加え、病理解剖後の臨床病理カンファレンスを併せ、年間約180回行っています
剖検の状況	剖検症例数 15 例 / 剖検率 4.7%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
心筋細胞膜不安定化におけるG蛋白共役型受容体構造変化と機能解析—心保護薬への影響	三浦 伸一郎	循環器内科	1,560,000円	補	日本学術振興会
				委	
経皮的冠動脈形成術の中長期的治療成績に関与する因子の検討	池 周而	循環器内科	1,170,000円	補	日本学術振興会
				委	
新規アポ蛋白A-I模倣ペプチド(改良型FAMP)の開発と動脈硬化診断・治療への応用	朔 啓二郎	循環器内科	1,500,000円	補	文部科学省
				委	
HDLによる新規動脈硬化症診断・治療のトランスレーショナルサイエンスの実践	朔 啓二郎	循環器内科	1,820,000円	補	日本学術振興会
				委	
アポA-I模倣ペプチドによる末梢動脈疾患の多面的治療戦略	今泉 聡	循環器内科	1,170,000円	補	日本学術振興会
				委	
薬物性肝障害関連毒類の作成、臨床試料収集と関連解析	向坂彰太郎	消化器内科	1,300,000円	補	木原財団
				委	
リンパ脈管筋腫症に対するラパマイシン長期内服の効果と安全性評価のためのコホート調査	渡辺 憲太郎 (研究分担者)	呼吸器内科	500,000円	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
				委	
びまん性肺疾患に関する調査研究	渡辺 憲太郎 (研究分担者)	呼吸器内科	300,000円	補	厚生労働省
				委	
びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究	渡辺 憲太郎 (研究分担者)	呼吸器内科	325,000円	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
				委	
自殺未遂者再企図防止事業	衛藤 暢明	精神神経科	2,300,000円	補	厚生労働省
				委	
自殺未遂者支援事業	衛藤 暢明	精神神経科	539,000円	補	福岡県
				委	
生体肝移植の精神症状の調査研究	川崎 弘詔(分担)	精神神経科	5,200,000 (3年分)	補	文部科学省
				委	
次世代手法でのノックインラットと人工患者iPS細胞を用いたてんかんの分子治療開発	廣瀬 伸一	小児科	5,300,000円	補	日本学術振興会
				委	
Dravet(ドラベ)症候群患者由来iPS細胞を用いた認可医薬品スクリーニングによる革新的な医薬品開発のシーズ探索研究	廣瀬 伸一	小児科	24,818,182円	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
				委	
iPS細胞由来の神経移植で難治性てんかんを治療する	廣瀬 伸一	小児科	900,000円	補	日本学術振興会
				委	

小計15

小児の急性脳症・けいれん重積状態の診療指針の確立	廣瀬 伸一(分担)	小児科	300,000円	補 委	厚生労働省
希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究	廣瀬 伸一(分担)	小児科	200,000円	補 委	厚生労働省
先進的治療法が確立した新たな成人患者のスクリーニング法の開発とその適応基準の作成に関する研究(分担課題:次世代シーケンサーを利用した遺伝学的診断によるスクリーニング後方支援体制の確立に関する研究)	廣瀬 伸一(分担)	小児科	500,000円	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
特異性大腿骨頭壊死症の治療法確立と革新的予防法開発にむけた全国学際研究	山本卓明	整形外科	29,900,000円	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
大腿骨軟骨下脆弱性骨折の予後規定因子の解析と予防法の確立	山本卓明	整形外科	4,940,000円	補 委	独立行政法人日本学術振興会
特異性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を旨とした大規模多施設研究	山本卓明	整形外科	100,000円	補 委	厚生労働省
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	秋田定伯 (代表者:三村秀文)	形成外科	300,000	補 委	厚生労働省
効果的な献血推進および献血教育方策に	秋田定伯 (代表者:白阪琢磨)	形成外科	300,000	補 委	厚生労働省
糖尿病及び慢性腎不全による合併症足潰瘍・壊疽等の重症下肢虚血症の予防に関する実態調査	秋田定伯 (代表者:大浦武彦)	形成外科	代表者一括計上	補 委	厚生労働省
異種-脱細胞化組織骨格の再細胞化による、再生気管、再生肺の移植研究	秋田定伯 (代表者:土屋智史)	形成外科	65,000	補 委	文部科学省(学振)基盤研究B
脱細胞化、再細胞化技術を使った再生肺の脆弱性の改善と、臓器保護に関わる基礎研究	秋田定伯 (代表者:土屋智史)	形成外科	50,000	補 委	文部科学省(学振)挑戦的萌芽
脳血管障害による片麻痺の歩行・下肢体幹運動機能改善効果を得るための新たな医療機器、下肢装着型ロボットスーツHALに関する医師主導治験	井上 亨	脳神経外科	650,000円	補 委	厚生労働省
光脳機能イメージングによるパーキンソン病に対する脳深部刺激療法効果発現機序の解明	森下 登史	脳神経外科	956,972円	補 委	文部科学省
脳梗塞発症後のマクロファージ活性化とその制御による脳保護作用	八木 謙次	脳神経外科	1,800,000円	補 委	文部科学省
食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究	今福 信一	皮膚科	630,000円	補 委	厚生労働省

神経皮膚症候群に関する診療科横断的検討による科学的根拠に基づいた診療指針の確立	今福 信一	皮膚科	900,000円	補	厚生労働省
				委	
HB-EGF標的治療薬適応のコンパニオン診断薬作製を目指した遺伝子探索	宮本新吾	産婦人科	2,700,000	補	文部科学省科学研究費基盤研究B
				委	
CD36を標的としたがん治療の創薬開発	宮本新吾	産婦人科	600,000	補	文部科学省科学研究費挑戦的萌芽研究
				委	
ゲノム編集を活用した新たながん治療標的分子の探索・同定	宮本新吾	産婦人科	6,000,000	補	平成28年度学術研究振興資金
				委	
アデノウイルス眼感染症の新しい薬物治療の探求と臨床応用化に関する研究	内尾英一	眼科	1,100,000	補	文部科学省
				委	
肝Dual-energy CTの新たな臨床応用:平衡相データを用いた肝線維化診断	吉満研吾	放射線科	1,200,000円	補	文科省 科研費基盤研究C
				委	
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業:身体活動の健康科学に関する総合研究	吉満研吾	放射線科	300,000円	補	身体活動研究所
				委	
成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	高松泰	腫瘍・血液・感染症内科	0円(分担金なし)	補	AMED
				委	
成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験	佐々木秀法	腫瘍・血液・感染症内科	395,000円	補	AMED
				委	
外来発熱性好中球減少症患者に対する経口levofloxacinの有用性に関する前向き検討	茂木愛	腫瘍・血液・感染症内科	500,000円	補	臨床研究奨励基金
				委	
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	柳瀬敏彦	内分泌・糖尿病内科	13,500,000	補	厚生労働省
				委	
間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する研究	柳瀬敏彦	内分泌・糖尿病内科	150,000	補	厚生労働省
				委	
重症型原発性アルドステロン症の診療の質向上に資するエビデンス構築	柳瀬敏彦	内分泌・糖尿病内科	300,000	補	AMED
				委	
膵臓癌特異的な微小環境構築能に対するKRAS関連シグナル阻害剤の開発	佐々木 隆光	消化器外科	1,300,000	補	文部科学省
				委	
ケタミンの急性痛、慢性痛に対する異なる鎮痛作用機序の検討	山浦 健	麻酔科	2,895,472	補	日本学術振興会
				委	

小計15

術前運動療法による術後心機能・認知機能低下の予防効果	山浦 健	麻酔科	1,500,000	補 委	日本学術振興会
嚥下圧と舌圧を用いた神経筋疾患患者の嚥下機能評価に関する研究	梅本丈二	歯科口腔外科	900,000	補 委	(独)日本学術振興会
3Dプリンターを用いた胆管構造を有する大型肝組織作製法の開発(2015～2017年度)	柳 佑典	総合周産期母子医療センター	4,810,000円	補 委	日本学術復興会
薬剤抵抗性小腸移植片拒絶反応に対する細胞治療法の確立(2015～2017年度)	柳 佑典(分担)	総合周産期母子医療センター	65,000円	補 委	日本学術復興会
ヒト歯髄幹細胞による肝不全に対する新規再生医療の開発(2015～2017年度)	柳 佑典(分担)	総合周産期母子医療センター	130,000円	補 委	日本学術復興会
ヒルシュスプルング病および類縁疾患の治療としての新腸管作成に関する研究(2015～2017年度)	柳 佑典(分担)	総合周産期母子医療センター	65,000円	補 委	日本学術復興会
ヒルシュスプルング病および類縁疾患における乳歯幹細胞による病因解明と新規治療開発(2016～2018年度)	柳 佑典(分担)	総合周産期母子医療センター	130,000円	補 委	日本学術復興会
高解像度画像システムを用いた小腸移植後拒絶反応の革新的診断法の開発(2016～2018年度)	柳 佑典(分担)	総合周産期母子医療センター	130,000円	補 委	日本学術復興会
微小乳頭状および簇出型浸潤様式の機序に関する包括的研究	鍋島 一樹	病理部	500,000	補 委	文科省科学研究費補助金基盤研究(C)
平成28年度石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査業務-FISH法を用いた中皮腫診断法の開発に関する調査編	鍋島 一樹	病理部	800,000	補 委	環境省
高TG,低HDL血症を中心とした脂質異常症関連遺伝子解析	松永 彰	医学部 臨床検査医学(臨床検査部)	1,400,000円	補 委	日本学術振興会
非抗菌薬を用いた持続感染細胞の駆逐を目指したMRSAバイオフィルムの制御	高田 徹	感染制御部	4,680,000	補 委	日本学術振興会
福岡県内600医療施設における血液製剤使用適正化推進方策の研究-大規模病院へのアドバイザーサポート事業とタスクフォースによる中小医療施設の輸血医療支援策-	熊川 みどり	輸血部	708,000円	補 委	厚生労働省
ICTを活用した血液の需要や適正使用の向上に関する研究(2年目)	熊川みどり	輸血部	485,000円	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
麻黄湯によるオートファジー機能強化を介したウイルス感染防御	鍋島 茂樹	総合診療部	1,430,000	補 委	文部科学省

プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	500,000	補 委	厚生労働省
血清ビタミンD濃度によるアルツハイマー病の早期診断とβアミロイド凝集制御	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	100,000	補 委	文部科学省
プリオン病に対する低分子シヤペロン治療薬の開発	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	647,000	補 委	AMED
希少性難治性疾患-神経・筋難病疾患の進行抑制治療効果を得るための新たな医療機器、生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	2,000,000	補 委	AMED
HAMに対する日本発の革新的治療となる抗CCR4抗体の実用化研究	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	2,129,000	補 委	AMED
Perry病診断基準の確立	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	1,400,000	補 委	AMED
パーキンソン病の起因となる腸管α Synuclein以上蓄積に対する腸内細菌層の関与の解明	坪井 義夫	神経内科・健康管理科	3,300,000	補 委	AMED
水素水飲水によるパーキンソン病に対する他施設協同無作為化二重盲検試験	深江 治郎	神経内科・健康管理科	50,000	補 委	厚生労働省
Perry症候群の病態解明研究	三嶋 崇靖	神経内科・健康管理科	700,000	補 委	文部科学省
多系統委縮症の自然史調査と病気の進行・突然死に寄与するバイオマーカーの探索	藤岡 伸助	神経内科・健康管理科	500,000	補 委	文部科学省

小計10

合計70

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Norimatsu K, Miura S, Suematsu Y, et al.	循環器内科	Association between pentraxin 3 levels and aortic valve calcification.	J Cardiol. 2016; 68:76-82	Original Article
2	Miyase Y, Miura S, Shiga Y, et al.	循環器内科	Association between the severity of coronary artery stenosis and the combination of the difference in blood pressure between arms and brachial-ankle pulse wave velocity.	Clin Exp Hypertens. 2016; 38:81-88	Original Article
3	Imazumi S, Miura S, Takata K, et al.	循環器内科	Association between cholesterol efflux capacity and coronary restenosis after successful stent implantation.	Heart Vessels. 2016; 31:1257-1265	Original Article
4	Motozato K, Miura S, Shiga Y, et al.	循環器内科	Efficacy and safety of two single-pill fixed-dose combinations of angiotensin II receptor blockers/calcium channel blockers in hypertensive patients (EXAMINER study).	Clin Exp Hypertens. 2016; 38(1):45-50	Original Article
5	Suematsu Y, Miura S, Zhang B, et al.	循環器内科	Association between dental caries and out-of-hospital cardiac arrests of cardiac origin in Japan.	J Cardiol. 2016 ;67(4):384-391	Original Article
6	Hitaka Y, Ogawa M, Zhang B, et al.	循環器内科	Circadian variations in laboratory measurements of coagulation assays after administration of rivaroxaban or warfarin in patients with nonvalvular atrial fibrillation.	J Cardiol. 2016 ;68(6):529-535	Original Article
7	Goto M, Miura S, Yamamoto T, et al.	循環器内科	Anticoagulant Therapy in a Pregnant Woman with May-Thurner Syndrome.	Internal Medicine. 2016;55(1):59-62	Original Article
8	Suematsu Y, Miura S, Takata K, et al.	循環器内科	A novel inducible cholesterol efflux peptide, FAMP, protects against myocardial ischemia reperfusion injury through a nitric oxide pathway.	International Journal of Cardiology. 2016;202:810-816	Original Article
9	Suematsu Y, Miura S, Goto M, et al.	循環器内科	LCZ696, an angiotensin receptor-neprilysin inhibitor, improves cardiac function with the attenuation of fibrosis in heart failure with reduced ejection fraction in streptozotocin-induced diabetic mice.	European Journal of Heart Failure. 2016;18(4):386-393	Original Article
10	Arimura T, Miura S, Morito N, et al.	循環器内科	Recent Patient Characteristics and Medications at Admission and Discharge in Hospitalized Patients With Heart Failure.	Journal of Clinical Medicine Research. 2016;8(2):97-104	Original Article
11	Hitaka Y, Miura S, Koyoshi R, et al.	循環器内科	Associations between parameters of flow-mediated vasodilatation obtained by continuous measurement approaches and the presence of coronary artery disease and the severity of coronary atherosclerosis.	Clin Exp Hypertens. 2016;38(5):443-450	Original Article
12	Yano M, Miura S, Shiga Y, et al.	循環器内科	Association between smoking habits and severity of coronary stenosis as assessed by coronary computed tomography angiography.	Heart Vessels. 2016;31(7):1061-1068	Original Article
13	Ueda T, Miura S, Suematsu Y, et al.	循環器内科	Association of Arterial Pressure Volume Index With the Presence of Significantly Stenosed Coronary Vessels	J Clin Med Res. 2016;8(9):598-604	Original Article
14	Adachi S, Miura S, Shiga Y, et al.	循環器内科	Depressor and Anti-Inflammatory Effects of Angiotensin II Receptor Blockers in Metabolic and/or Hypertensive Patients With Coronary Artery Disease: A Randomized, Prospective Study (DIAMOND Study).	J Clin Med Res. 2016;8(10):743-748	Original Article
15	Ueda T, Miura S, Fujimi K, et al.	循環器内科	Assessment of various parameters using simple non-invasive tests in patients with cardiovascular diseases with or without cardiac rehabilitation	IJC Heart & Vasculature. 2016;12:63-67	Original Article
16	Idemoto Y, Miura S, Norimatsu K, et al.	循環器内科	Evaluation of the antithrombotic abilities of non-vitamin K antagonist oral anticoagulants using the Total Thrombus-formation Analysis System®	Heart Vessels. 2016;32:309-316	Original Article
17	Goto M, Miura S, Suematsu Y, et al.	循環器内科	Rivaroxaban, a factor Xa inhibitor, induces the secondary prevention of cardiovascular events after myocardial ischemia reperfusion injury in mice.	Int J Cardiol. 2016;220:602-607	Original Article
18	Kuwano T, Miura S, Norimatsu K, et al.	循環器内科	Advanced glycation of high-density lipoprotein and the functionality of aldosterone release in type 2 diabetes.	Hypertens Res. 2016;40(3):271-276	Original Article
19	Miura S, Suematsu Y, Matsuo Y, et al.	循環器内科	The angiotensin II type 1 receptor-neprilysin inhibitor LCZ696 blocked aldosterone synthesis in a human adrenocortical cell line	Hypertens Res. 2016;39(11):758-763	Original Article
20	Motozato K, Miura S, Shiga Y, et al.	循環器内科	Efficacy and Safety of a Single-Pill Fixed-Dose Combination of Azilsartan and Amlodipine	J Clin Med Res. 2016;8(12):888-892	Original Article

小計20

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
21	Sugihara H, Idemoto Y, Kuwano T, et al.	循環器内科	Evaluation of the Antithrombotic Effects of Rivaroxaban and Apixaban Using the Total Thrombus-Formation Analysis System®: In Vitro and Ex Vivo Studies	J Clin Med Res. 2016;8(12):899-907	Original Article
22	Ishida T, Miura S, Fujimi K, et al.	循環器内科	Visit-to-Visit Variability and Reduction in Blood Pressure After a 3-Month Cardiac Rehabilitation Program in Patients With Cardiovascular Disease.	Int Heart J. 2016;57(5):607-614	Original Article
23	Norimatsu K, Kuwano T, Miura S, et al.	循環器内科	Significance of the percentage of cholesterol efflux capacity and total cholesterol efflux capacity in patients with or without coronary artery disease.	Heart Vessels. 2017;32(1):30-38	Original Article
24	Shiga Y, Miura S, Motozato K, et al.	循環器内科	Efficacy and Safety of Combination Therapy Consisting of Angiotensin II Type 1 Receptor Blocker, Calcium Channel Blocker and Hydrochlorothiazide in Patients With Hypertension	J Clin Med Res. 2017;9(2):98-103	Original Article
25	Komaki T, Miura S, Arimura T, et al.	循環器内科	The Change in Body Weight During Hospitalization Predicts Mortality in Patients With Acute Decompensated Heart Failure.	J Clin Med Res. 2017;9(3):200-206	Original Article
26	Gondo K, Ike A, Ogawa M, et al.	循環器内科	Is Bare-metal Stent Still Useful for Improving Outcomes of Percutaneous Coronary Intervention?: From the FU-Registry	Journal of Cardiology. 2017;69(4):652-659	Original Article
27	Ishida T, Miura S, Fujimi K, et al.	循環器内科	Significance of Cardiac Rehabilitation on Visit-to-Visit Variability of Blood Pressure in Patients With Cardiovascular Disease in a 12-Month Follow-Up.	J Clin Med Res. 2017 9(4):345-352	Original Article
28	Takata K, Imaizumi S, Zhang B, et al.	循環器内科	Stabilization of high-risk plaques.	Cardiovasc Diagn Ther. 2016;6:304-321	Review
29	Nagata Y, Ogawa M, Goto S, et al.	循環器内科	Frequent Premature Ventricular Complexes Originating from the Left Ventricular Summit Successfully Ablated from the Proximal Great Cardiac Vein Using an Impedance-based Electroanatomical Mapping System	Intern Med. 2016;55(13):1751-1753	Case report
30	Hideki Ishibashi, Satoshi Nimura, Kenji Ishitsuka, et al.	消化器内科	High Expression of Intestinal Homing Receptor CD103 in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma, Similar to 2 Other CD8+ T-Cell Lymphomas	The American Journal of Surgical Pathology: 40(4),462-470,2016	Original Article
31	Takashi Tanaka, Kenji Ikeda, Yushi Sorin, et al.	消化器内科	Three-Dimensional Imaging Using Contrast-Enhanced and Three-Dimensional Ultrasound Techniques in the Ablative Zone Treated with a Multipolar Radiofrequency Ablation System for Hepatocellular Carcinoma	Oncology: 2016,90(4):255-260	Original Article
32	Irie M, Sohda T, Anan A, et al.	消化器内科	Reduced Glutathione suppresses Oxidative Stress in Nonalcoholic Fatty Liver Disease	Euroasian Journal of Hepato-Gastroenterology: 2016;6(1):13-18	Original Article
33	Hideki Ishibashi, Satoshi Nimura, Yoshiyuki Kayashima, et al.	消化器内科	Multiple lesions of gastrointestinal tract invasion by monomorphic epitheliotropic intestinal T-cell lymphoma, accompanied by duodenal and intestinal enteropathy-like lesions and microscopic lymphocytic proctocolitis: a case series	Diagnostic Pathology 2016 July 25:11(1):66	Original Article
34	Yasuaki Takeyama, Shotaro Sakisaka	消化器内科	Bile Acids and Viral Hepatitis and Hepatocellular Carcinoma	Bile Acids in Gastroenterology Basic and Clinical 2016, DOI 10.1007/978-	Others
35	Fujita M, Ouchi H, Ikegame S, et al.	呼吸器内科	Critical role of tumor necrosis factor receptor 1 in the pathogenesis of pulmonary emphysema in mice.	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis, 2016 Jul;11:1705-1712	Original Article
36	Matsumoto T, Fujita M, Hirano R, et al.	呼吸器内科	Chronic Pseudomonas aeruginosa infection-induced chronic bronchitis and emphysematous changes in CCSP-deficient mice.	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis, 2016 Sep;11:2321-2327	Original Article
37	Fujita M, Matsumoto T, Inoue Y, et al.	呼吸器内科	The efficacy and safety of cefepime or meropenem in the treatment of febrile neutropenia in patients with lung cancer. A randomized phase II study.	J Infect Chemother, 2016 Apr;22(4):235-239	Original Article
38	Igata F, Uchino J, Fujita M, et al.	呼吸器内科	Clinical Features of Lung Cancer in Japanese Patients Aged Under 50.	Asian Pac J Cancer Prev, 2016 Jul;17(7):3377-3380	Original Article
39	Kushima H, Ishii H, Tokimatsu I, et al.	呼吸器内科	Effects of sulfamethoxazole-trimethoprim on airway colonization with Pneumocystis jirovecii.	Jpn J Infect Dis, 2016 May;69(3):252-255	Original Article
40	Kushima H, Tokimatsu I, Ishii H, et al.	呼吸器内科	A New Amino Acid Substitution at G150S in Lanosterol 14- α Demethylase (Erg11 protein) in Multi-azole-resistant Trichosporon asahii.	Med Mycol J, 2017 Jan;58(1):E23-E28	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
41	Kushima H, Hidaka K, Ishii H, et al.	呼吸器内科	Two cases of pleuroparenchymal fibroelastosis diagnosed with transbronchial lung biopsy.	Respir Med Case Rep,2016 Jul;19:71-73	Case report
42	Fujita M, Matsumoto T, Hirano R, et al.	呼吸器内科	Adenoid cystic carcinoma of the lung with an EGFR mutation.	Intern Med,2016 Jun;55(12):1621-1624	Case report
43	Kushima H, Tokimatsu I, Ishii H, et al.	呼吸器内科	Invasive pulmonary aspergillosis presenting with tracheobronchial involvement.	Intern Med,2016 Jun;55(12):1679, 2016	Case report
44	Sasaki T, Kinoshita Y, Fujita M, et al.	呼吸器内科	Aggressive Cystic and Cavitory Appearances in Lung Adenocarcinoma.	Intern Med,2017 Jan;56(1):119-120. doi: 10.2169/internalmedicine.56.7228. Epub 2017 Jan 1. No abstract available	Case report
45	Ihara Y1, Tomonoh Y1, Deshimaru M2	小児科	Retigabine, a Kv7.2/Kv7.3-Channel Opener, Attenuates Drug-Induced Seizures in Knock-In Mice Harboring Kcnq2 Mutations	PLoS ONE (vol.11(2);e0150095,2016)	Original Article
46	Shi XY, Tomonoh Y, Wang WZ, Ishii A, Higurashi N, Kurahashi H, Kaneko S, Hirose S.	小児科	Efficacy of antiepileptic drugs for the treatment of Dravet syndrome with different genotypes	Brain Dev (vol.38(1);40-46,2016)	Original Article
47	S Yamashita, Y Yoshida, A Iwasaki	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Robotic Surgery for Thoracic Disease.	Ann Thorac Cardiovasc Surg・22(1):1-5,2016	Review
48	Tanaka J, Yugue I, Shiba, et al.	整形外科	A study of risk factors for tracheostomy in patients with a cervical spinal cord injury.	SPINE/41(9);764-771, may 2016	Original Article
49	Hagio T, Naito M, Nakamura Y, et al.	整形外科	Do labral tears influence poor outcomes after periacetabular osteotomy for acetabular dysplasia?	The Bone and Joint Journal/98-B(6):741-746, 2016	Original Article
50	Yamamoto T, Motomura G, Karasuyama K, et al.	整形外科	Results of the Sugioka transtrochanteric rotational osteotomy for osteonecrosis: Frequency and role of a defect of the quadratus femoris muscle in osteonecrosis progression.	Orthop Traumatol Surg Res/102;387-390,2016	Original Article
51	So Minokawa, Masatoshi Naito, Koichi Kinoshita, et al.	整形外科	Acetabular labrum blood flow in developmental dysplasia of the hip: an intraoperative in vivo study using laser Doppler flowmetry	Journal of Orthopaedic Surgery and Research/11;116,2016	Original Article
52	Nishio J, Iwasaki H, Shibata T, et al.	整形外科	Duplication of chromosome segment 12q13-15 in a lipomatous tumor with minimal nuclear atypia: a case report	Oncol Lett/11(4): 2875-2878, 2016	Case report
53	Shibata T, Yoshimura I, Kanazawa K, et al.	整形外科	Neurectomy for Bilateral Morton's Neuroma A Case Report of a Male Patient	Journal of American Podiatric Medical Association/106(3):229-234	Case report
54	Akita S, Yoshimoto H, Tanaka K, et al.	福岡大学病院	Silver Sulfadiazine-Impregnated Hydrocolloid Dressing Is Beneficial in Split-Thickness Skin-Graft Donor Wound Healing in a Small Randomized Controlled Study	Int J Low Extrem Wounds Nov 6, pii: 1534734616670988, 2016	Original Article
55	Fukuda K, Higashi T, Okawa M et al	脳神経外科	Fusion Technique Using Three-Dimensional Digital Subtraction Angiography in the Evaluation of Complex Cerebral and Spinal Vascular Malformations	World Neurosurgery・ 85:353 - 358, 2016	Original Article
56	Kobayashi H, Morishita T, Ogata T et al	脳神経外科,神経内科	Extracranial and intracranial vertebral artery dissections: A comparison of clinical findings	J.Neurological Sciences 362(3): 244 - 250, 2016	Original Article
57	Fukuda H, Morishita T, Ogata T et al.	リハビリテーション科,脳神経外科,神経内科	Tailor-made rehabilitation approach using multiple types of hybrid assistive limb robots for acute stroke patients: A pilot study	Assistive Technology 28(1):53 - 56, 2016	Original Article
58	Morishita T, Inoue T	脳神経外科	Brain Stimulation Therapy for Central Post-Stroke Pain from a Perspective of Interhemispheric Neural Network Remodeling	Frontiers in Human Neuroscience 10(4),2016(オンライン)	Original Article
59	Morishita T, Inoue T	脳神経外科	Interactive Bio-feedback Therapy Using Hybrid Assistive Limbs for Motor Recovery after Stroke:Current Practice and Future Perspectives	Neurologia medico-chirurgica 56(10):605 - 612, 2016	Original Article
60	O Hamada, N Sakata, T Ogata et al.	脳神経外科	Contrast-enhanced ultrasonography for detecting histological carotid plaque rupture: Quantitative analysis of ulcer	International Journal of Stroke 11(7):791 - 798, 2016	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
61	H Abe, T Katsuta, K Miki et al.	脳神経外科	Temporary Steno-occlusive Change in the Donor Artery During Mouth Opening(Big Bite Ischemic Phenomenon)After Superficial Temporal Artery to Middle Cerebral Artery Bypass in Adult Patients with Moyamoya Disease and Atherosclerosis	Acta Neurochirurgica Supplement 123 / 123 - 128, 2016	Original Article
62	Morishita T, Higuchi M, Saita K et al.	脳神経外科	Changes in Motor-related Cortical Activity Following Deep Brain Stimulation for Parkinson's Disease Detected by Functional Near Infrared Spectroscopy: A Pilot Study	Frontiers in Human Neuroscience 2016 (オンライン)	Original Article
63	K Miki, Y Shigemori, S Oshiro et al.	脳神経外科	Bilateral Acute Traumatic Epidural Hematoma Due to Coup and Contrecoup Head Injury:a Case Report and Review of the Literature	Gavin Journal of Emergency Medicine 38 - 41, 2016	Case report
64	H Fukumoto, K Samura, T Katsuta et al.	脳神経外科	Extensive Multilocular Spinal Extradural Meningeal Cyst That Developed 16 Years After Traumatic Brachial Plexus Injury: A Case Report	World Neurosurgery 86; 510e5 - 510e10,2016	Case report
65	Shigemori Y, Matsumoto J, Oshiro S et al.	脳神経外科	Periorbital Emphysema due to Coughing after a Sports-related Facial Injury: A Case report	Clinics in Surgery 1: Published:05 May,2016	Case report
66	Wada H, Sakata N, Tashiro T	心臓血管外科	Clinicopathological study on penetrating atherosclerotic ulcers and aortic dissection: distinct pattern of development of initial event	Heart Vessels Vol31(11)1855-1861 Nov. 2016	Original Article
67	Ito K, Koga M, Shibayama Y, et al.	皮膚科	Proactive treatment with calcipotriol reduces recurrence of plaque psoriasis.	J Dermatol.2016 Apr;43:402-5	Original Article
68	Tatsukawa R, Koga K, Aoki M, et al.	皮膚科	Immunohistochemical demonstration of EphA2 processing by MT1-MMP in invasive cutaneous squamous cell carcinoma.	Virchows Arch 2016 Apr;469:25-34	Original Article
69	Koga M, Koga K, Ueno T, et al.	皮膚科	Cutaneous mastocytosis with bone anomalies of the inner ear and sinus pericranii in the parietal region.	J Dermatol.2016 June;43:718-9	Letter
70	Koga M, Yoshida Y, Imafuku S.	皮膚科	Nutritional, muscular and metabolic characteristics in patients with neurofibromatosis type 1.	J Dermatol.2016 July;43:799-803	Original Article
71	Sato E, Muto J, Zhang LJ, et al.	皮膚科	The Parathyroid Hormone Second Receptor PTH2R and Its Ligand Tuberoinsulin Peptide of 39 Residues TIP39 Regulate Intracellular Calcium and Influence Keratinocyte Differentiation.	J Invest Dermatol.2016 July;136:1449-59	Original Article
72	Imafuku S, Honma M, Okubo Y, et al.	皮膚科	Efficacy and safety of secukinumab in patients with generalized pustular psoriasis : A 52-week analysis from phase III open-label multicenter Japanese study	J Dermatol.2016 Sep;43:1011-17	Original Article
73	Koga M, Fujita M, Imafuku S.	皮膚科	Two cases of tuberculosis manifesting as cutaneous solitary mass in patients with adult T-cell leukemia/lymphoma.	J Tuberc Res.2016 Sep;4:134-9	Case report
74	Miyachi M, Imafuku S.	皮膚科	Relationship between prior knowledge about herpes zoster and the period from onset of the eruption to consultation in patients with herpes zoster	J Dermatol.2016 Oct;43:1184-7	Original Article
75	Naito R, Imafuku S.	皮膚科	Distinguishing features of body mass index and psoriasis in men and women in Japan: A hospital-based case-control study.	J Dermatol.2016 Dec;43:1406-11	Original Article
76	N. Nakamura, M. Tanaka, M. Tsukamoto, et al.	泌尿器科	Analysis of Donor Factors for Non-Heart-Beating Donors With Regard to Cadaveric Kidney Transplantation in the Western Region of Japan	Transplantation Proceedings. 2017 Jan; 49(1): 16-25	Original Article
77	N. Nakamura, T. Miyazaki, H. Matsuzaki, et al.	泌尿器科	Experience of Quatro-Therapy With Everolimus to Minimize Calcineurin Inhibitor for Kidney Transplant Recipients	Transplantation Proceedings. 2017 Jan; 49(1): 32-36	Original Article
78	Miyahara D, Katsuda T, Maehara M, et al	産婦人科	Safety and Anti-tumor Effects of Docetaxel Plus Cisplatin in Intermediate- and High-risk Endometrial Cancer	Anticancer Res 36:3725-3730, 2016	Original Article
79	Nam SO, Yotsumoto F, Miyata K, et al	産婦人科	Anti-tumor Effect of Intravenous Administration of CRM197 for Triple-negative Breast Cancer Therapy	Anticancer Res 36:3651-3657, 2016	Original Article
80	Miyamoto S, Yotsumoto F, Ueda T, et al	産婦人科	BK-UM in patients with recurrent ovarian cancer or peritoneal cancer: a first-in-human phase-I study	BMC Cancer•DOI 10.1186/s12885-017-3071-5, 2017	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
81	Fukagawa S, Miyata K, Yotsumoto F, et al	産婦人科	miR-135a-3p as a promising biomarker and nucleic acid therapeutic agent for ovarian cancer	Cancer Sci:2017 Feb 23. doi: 10.1111/cas.13210.	Original Article
82	R Ko, M Hayashi, H Hayashi	眼科	Correlation between acute conjunctivitis and Asian dust on ocular surfaces	J Toxicol Environ A79: 367-375, 2016	Original Article
83	Fujimitsu R, Shimakura M, Urakawa H	放射線科	Homogeneously enhancing breast lesions on contrast enhanced US: differential diagnosis by conventional and contrast enhanced US findings	Jpn J Radiol34(7): 508-514 2016.July	Original Article
84	Hida K, Nonokuma M, Kuwabara Y	放射線科	Creation and validation of an l-123 FP-CIT template for statistical image analysis using high-resolution SPECT for parkinsonian patients	Ann Nucl Med30(7): 477-4832016 Aug.	Original Article
85	Nonokuma M, Kuwabara Y, Hida K	放射線科	Optimal ROI setting on the anatomically normalized l-123 FP-CIT images using high-resolution SPECT	Ann Nucl Med30(9):637-644 2016 Nov.	Original Article
86	K Takano, K Hida, Y Kuwabara, K Yoshimitsu	放射線科	Intracranial arterial wall enhancement using gadolinium-enhanced 3D black-blood T1-weighted imaging	Eur J Radiol 86: 13-19 2017Jan.	Original Article
87	K Yoshimitsu, Y Shinagawa, T MitsuFuji	放射線科	Preliminary comparison of multi-scale and multi-model direct inversion algorithms for 3T MR elastography	Magn Reson Med Sci 16(1): 73-77 2017Jan.	Original Article
88	Kosuke Hida1MD Koichi Takano1MD Kengo Yoshimitsu	放射線科	Inner ear enhancement on gadolinium-enhanced 3D FLAIR images in a patient with Vogt-Koyanagi-Harada disease	BJR 3(1): 20160090 (1-4) 2017Jan	Case report
89	Y Higuma, R Yamauchi, R Fujimitsu	放射線科	Hepatic Hodgkin lymphoma with delayed enhancement on CT and MRI	Radiology 12(1): 45-49 2017 Mar.	Case report
90	Naito Y, Sasaki H, Takamatsu Y, et al.	腫瘍・血液・感染症内科	Retrospective Analysis of Treatment Outcomes and Geriatric Assessment in Elderly Malignant Lymphoma Patients.	J Clin Exp Hematop 56(1):43-46, 2016 June.	Original Article
91	Fukuda T, Tanaka T, Hamaguchi Y. et al.	内分泌・糖尿病内科	Augmented GH secretion and Stat3 phosphorylation in an aryl hydrocarbon receptor interacting protein (AIP)-disrupted somatotroph cell line.	PLOS ONE 11(10), 2016 e0164131	Original Article
92	Tanabe M, Motonaga R, Terawaki Y. et al.	内分泌・糖尿病内科	Prescription of oral hypoglycemic agents for patients with type 2 diabetes mellitus: A retrospective cohort study using a Japanese hospital database.	J Diabetes Investig. 2016 doi: 10.1111/jdi.12567.	Original Article
93	Yanase T, Tajima T, Katabami T. et al.	内分泌・糖尿病内科	Diagnosis and treatment of adrenal insufficiency including adrenal crisis: a Japan Endocrine Society clinical practice guideline.	Endocr J 63: 765-784, 2016	Original Article
94	Nomiya T, Yanase T	内分泌・糖尿病内科	GLP-1 receptor agonist as treatment for cancer as well as diabetes: beyond blood glucose control.	Expert Review of Endocrinology & Metabolism 11: 357-364, 2016	Review
95	Ito K, Sakata N, Nagai R, et al.	腎臓・膠原病内科	High serum level of methylglyoxal-derived AGE, N δ -(5-hydro-5-methyl-4-imidazolone-2-yl)-ornithine, independently relates to renal dysfunction.	Clin Exp Nephrol. 21: 398-406,2017 (DOI: 10.1007/s10157-016-1301-9) (オンライン)	Original Article
96	Nakashima H, Kawano M, Saeki T, et al.	腎臓・膠原病内科	Estimation of the number of histological diagnosis for IgG4-related kidney disease referred to the data obtained from the Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR) questionnaire and cases reported in the Japanese Society of Nephrology Meetings.	Clin Exp Nephrol.21:97-103, 2017. (DOI: 10.1007/s10157-016-1260-1)(オンライン)	Original Article
97	Tashiro M, Sasatomi Y, Watanabe R, et al	腎臓・膠原病内科	IL-1 β promotes tubulointerstitial injury in MPO-ANCA-associated glomerulonephritis.	Clin Nephrol 86:190-9, 2016	Original Article
98	Tada K, Ito K, Hamauchi A, et al.	腎臓・膠原病内科	Clopidogrel-induced Thrombotic Microangiopathy in a Patient with Hypocomplementemia	Intern Med 55: 2016 (DOI: 10.2169/internalmedicine.55.5703)(オンライン)	Case report
99	Yasuno T, Masaaki M, Watanabe R	腎臓・膠原病内科	Successful Treatment of Elderly-Onset Minimal Change Nephrotic Syndrome by using Mizoribine.	Open J Clin Med Case Rep. 2(15) 1150-5, 2016	Case report
100	Hasegawa S, Hida K, Kawada K	消化器外科	Transanal total mesorectal excision for rectal cancer: a video demonstration of rectal dissection	Dis Colon Rectum 59(2):157, 2016	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
101	Hasegawa S, Okada T, Hida K	消化器外科	Transperineal minimally invasive approach for extralevator abdominoperineal resection	Surg Endosc. 30(10):4620-4621, 2016	Original Article
102	S Hasegawa, R Takahashi, K Hida	消化器外科	Revisiting the treatment strategy for rectal cancer through the pattern of local recurrence	J Surg Oncol. 42(11):1674-1679, 2016	Original Article
103	Y Yoshida, M Neito, T Yamada	消化器外科	Adoptive Chemoinmunotherapy Using Activated α β T Cells for Stage IV Colorectal Cancer	Anticancer Res. 36(7):3741-3746, 2016	Original Article
104	Yoichiro Yoshida, corresponding author I Ai Mogi, Naoya Aisu	消化器外科	Objective evaluation of oxaliplatin-induced vascular pain secondary to peripheral vein administration	Springerplus 5:1872, 2016	Original Article
105	Yamashita K, Takeno S, Hoshino S	消化器外科	Triclosan sutures for surgical site infection in colorectal cancer	J Surg Res. 206(1):16-21, 2016	Original Article
106	Shiwaku H, Inoue H, Yamashita K	消化器外科	Peroral endoscopic myotomy for esophageal achalasia: outcomes of the first over 100 patients with short-term follow-up	Surg Endosc. 30(11):4817-4826, 2016	Original Article
107	Kanefumi Yamashita, Hironari Shiwaku, Toshihiro Ohmiya	消化器外科	Efficacy and safety of endoscopic submucosal dissection under general anesthesia	World J Gastrointest Endosc. 10;8(13):466-71, 2016	Original Article
108	Shiwaku H, Inoue H, Sasaki T	消化器外科	A prospective analysis of GERD after POEM on anterior myotomy	Surg Endosc. 30(6):2496-504, 2016	Original Article
109	Takeno S1, Yamashita K1, Yamashita Y	消化器外科	The Results of a Propensity Score Matching Analysis of the Efficacy of Abdominal Fascia and Skin Closure Using PDS® Plus Antibacterial (Polydioxanone) Sutures on the Incidence of Superficial Incisional Surgical Site Infections after Gastroenterologic Surgery	Surg Infect (Larchmt) 17(1):94-99, 2016	Original Article
110	Yamashita K, Shiwaku H, Hirose R	消化器外科	Long-term outcome of peroral endoscopic myotomy for achalasia treatment in a 9-year-old female patient	Asian J Endosc Surg. 9(4):332-335, 2016	Case report
111	H Shiwaku, H Inoue, S Nimura	消化器外科	Histological findings of divided muscle after peroral endoscopic myotomy	Ann Gastroenterol. 29(1):94-5, 2016	Case report
112	Kanefumi Yamashita, Shinsuke Takeno, Satoshi Nimura	消化器外科	Gastric metastasis from salivary duct carcinoma mimicking primary gastric cancer	Int J Surg Case Rep. 23:36-9, 2016	Case report
113	I HARAGA, K HIGA, S ABE	麻酔科	A novel model of epidural catheter-related infection: the importance of repeated catheter movements	Journal of Japan Society of Pain Clinicians 23(1):1-7, 2016	Original Article
114	Haraga I, Abe S, Jimi S	麻酔科	Increased biofilm formation ability and accelerated transport of Staphylococcus aureus along a catheter during reciprocal movements	Journal of Microbiological Methods 2017 Jan;132:63-68.	Original Article
115	Sato S, Nakamori E, Kusumoto G	麻酔科	Neurally Mediated Syncope During Cesarean Delivery: A Case Report	A & A Case Reports 8(5):96-99, MAR 2017	Case report
116	Matsuda M, Kondo S, Seto M, et al.	歯科口腔外科	Three-Dimensional Quantitative Evaluation of the Effect of Local Administration of Dexamethasone on Facial Swelling after Impacted Mandibular Third Molar Extraction	Journal of Dentistry & Oral Disorders 2016, 2(7):1036	Original Article
117	Seto M, Matsuda M, Narihira K, et al.	歯科口腔外科	Oral surgery under local anesthesia with dexmedetomidine sedation in a morbidly obese patient with aortic dissection	J Korean Assoc Oral Maxillofac Surg 2016, 42:162-165,	Case report
118	Umamoto G, Fujioka S, Yanamoto S, et al.	歯科口腔外科	A case of sudden deterioration in Parkinson disease	Neurology 2016, 87; 1422	Case report
119	Umamoto G, Furuya H, Arahata H, et al.	歯科口腔外科	Relationship between tongue thickness and tongue pressure in neuromuscular disorders	Neurology and Clinical Neuroscience 2017, 4:142-145	Original Article
120	Watanabe J, Ogata T, Nonaka M, et al.	リハビリテーション部	Patients' Characteristics and outcomes depending on complete unilateral spatial neglect	Neurosurg Rev. 10.1007/s10143-017-0821-4, 2017 [オンライン]	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
121	Watanabe J, Ogata T, Higashi T, et al.	リハビリテーション部	Cognitive Change 1 Year after CEA or CAS compared with Medication	J Stroke Cerebrovasc Dis.26(6):1297-1305, 2017	Original Article
122	Saita K, Morishita T, Hyakutake K, et al.	リハビリテーション部	Combined therapy using botulinum toxin A and single-joint hybrid assistive limb for upper-limb disability due to spastic hemiplegia	J Neurol Sci.373: 182-7, 2017	Original Article
123	Saita K, Ogata T, Watanabe J, et al.	リハビリテーション部	Contralateral Cerebral Hypometabolism After Cerebellar Stroke: A Functional Near-Infrared Spectroscopy Study	J Stroke Cerebrovasc Dis.26(4):e69-e71, 2017	Original Article
124	Hida T, Hamasaki M, Matsumoto S, et al.	病理部	BAP1 immunohistochemistry and p16 FISH results in combination provide higher confidence in malignant pleural mesothelioma diagnosis: ROC analysis of the two tests.	Pathol Int, 2016 Oct;66(10):563-570	Original Article
125	Hamasaki M, Matsumoto S, Abe S, et al.	病理部	Low homozygous/high heterozygous deletion status by p16 FISH correlates with a better prognostic group than high homozygous deletion status in malignant pleural mesothelioma.	Lung Cancer, 99: 155-161, 2016	Original Article
126	Hirofumi Shimada	臨床検査部	The evaluation of the time course and vulnerability of carotid plaque by contrast-enhanced carotid ultrasonography	Journal of Stroke and Cerebrovascular Disease (assept)	Original Article
127	Nakano T, Nakamura Y, Takata T, et al.	薬剤部	Change of teicoplanin loading dose requirement for incremental increases of systemic inflammatory response syndrome score in the setting of sepsis.	Int J Clin Pharm.38(4):908-14, 2016	Original Article
128	Nakamura Y, Uchiyama M, Hara S, Mizunuma M, Nakano T, Ishikura H, Hoshino K, Kawano Y, Takata T.	救命救急センター	Therapeutic Dose Monitoring for Linezolid in a Patient with MRSA Pneumonia with Bacteremia in Diabetes Insipidus.	Infect Dis Ther. 5(1):81-7, 2016.	Case report
129	Fujioaka S, Avi A. Algom, Melissa E. Murray	神経内科・健康管理科	Tremor in progressive supranuclear palsy.	Parkinsonism & Related Disorders 2016;27:93-97	Original Article
130	S Fujioaka, J Fukae, H Ogura	神経内科・健康管理科	Hospital-based study on emergency admission of patients with Parkinson's disease.	NeurologicalSci 2016;4:19-21	Original Article
131	J Fukae, J Tsugawa, S Ouma	神経内科・健康管理科	Gullain-Barre and Miller Fisher syndromes in patients with anti-hepatitis E virus antibody	a hospital-based survey in JapanNeurol Sci.2016;37:1849-1851	Original Article
132	T Mishima, T Ishikawa, K Imamura	神経内科・健康管理科	Cytoplasmic aggregates of dynactin in iPSC-derived tyrosine hydroxylase-positive neurons from a patient with Perry syndrome.	Parkinsonism & Related Disorders 2016;30:67-72	Original Article
133	Shozaburo Yanamoto, Jiro Fukae, Yurie Fukiyama	神経内科・健康管理科	Idiopathic remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema syndrome associated with bilateral pleural and pericardial effusions: a case report	Journal of Medical Case Reports2016;20:198	Case report
134	Tsuboi Y	神経内科・健康管理科	Annual incidence of Gerstmann-Straussler-Scheinker disease in Kyushu region of Japan	PRION 2016 p266	Case report
135	Horibata K, Takemura Y	総合診療部	Inappropriate Use of Ambulance Services by Elderly Patients with Less Urgent Medical Needs.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine	Original Article
136	Horibata K, Tanoue A, Ito M	総合診療部	Relationship between renal function and serum magnesium concentration in elderly outpatients treated with magnesium oxide.	Geriatrics & Gerontology International	Original Article

小計16
合計136

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、または et al とする。
- 3 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 4 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 5 「論文種別」欄には、Original Article, Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Ogawa M	循環器内科	完全皮下埋込み型除細動器「EMBLEM™」	日本循環制御医学会 循環制御.2017;38(1):62-66	Review
2	Imaizumi S	循環器内科	【第14回禁煙推進セミナー】(喫煙と循環器疾患 up to date) 4. 病院・医学部・学会・自治体での禁煙推進術	循環器専門医. 2016;24(1):151-157	Review
3	Miura S	循環器内科	Residual Risk に対するHDL増加・機能改善療法における包括的心臓リハビリテーションの役割	日本心臓リハビリテーション.2016;22(2・3):126-131	Review
4	Saku K	循環器内科	喫煙と循環器疾患 -新たな禁煙医療への挑戦-	心臓.2016;48(1):114-118	Review
5	Ogawa M	循環器内科	心臓自律神経活動からみた不整脈発生機序と自律神経修飾効果	不整脈+PLUS.2016;12:10-11	Review
6	Shiga Y	循環器内科	各種疾患の新しい治療薬 高血圧・脂質異常症・痛風	臨床と研究. 2016;93(3):23-27	Review
7	Iwata A	循環器内科	心肺蘇生の実践とACLS	循環器疾患最新の治療2016-2017.2016;67-71	Review
8	Arimura T	循環器内科	糖尿病と心不全の関連性	臨床と研究. 2016;93(4):70-73	Review
9	Ueda Y	循環器内科	異所性脂肪と冠動脈硬化性病変との関連性	臨床と研究. 2016;93(6):97-100	Review
10	Iwata A	循環器内科	血栓吸引療法	日本臨床.2016;74 Suppl 4 Pt 1:428-432	Review
11	Ogawa Masahiro	循環器内科	β遮断薬:心不全と心房細動	循環器内科. 2016;80(1):21-24	Review
12	Gotou M	循環器内科	脂質異常症治療薬	HeartView.2016;20(11):66-71	Review
13	Ogawa M	循環器内科	心房細動治療を考える-血栓塞栓予防とレート・リズムコントロール-	臨床と研究. 2016;93(12):107-110	Review
14	Idemoto Y	循環器内科	食餌療法・禁煙・生活指導の実践	診断と治療のABC 狭心症.2016;229-230	Review
15	Ogawa Masahiro	循環器内科	心電図診断スキルアップ 心電図の読み方と見逃してはならない所見—正常と異常とを見極める— P波・PQ間隔・QRS波 波形の成り立ちと読解	循環器ジャーナル 心電図診断スキルアップ. 2017;62(2):226-233	Review
16	Yasuaki Takeyama, Shotaro Sakisaka	消化器内科	特集胆汁酸研究の進歩と展望—これからのbreakthroughを目指して— 胆汁うっ滞における肝のコレステロール・胆汁酸代謝動態の変化	肝胆臓.72(5):785-791,2016	Review
17	Tanaka T, Anan A, Takata K, et al	消化器内科	リピオドールTACEを先行した肝細胞癌症例に対し治療支援としてCアーム型透視X線装置を併用したマルチポータRFPAの治療経験	肝臓.571(4):186-189;2016	Others
18	Ishibashi H, Nimura S, Ohishi J, et al	消化器内科、病理	消化管病変を合併したvon Recklinghausen病	胃と腸.51(8),1048-1054,2016	Case report
19	Ishibashi H, Nimura S	消化器内科、病理	【狭窄を来す小腸疾患の診断】原発性小腸癌	胃と腸.51(13),1708-1709,2016	Case report
20	Watanabe K, Ishii H, Kushima H	呼吸器内科	PPFEの診断基準策定～東京びまん性肺疾患研究会の症例検討を踏まえて	厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患政策事業研究 びまん性肺疾患に関する調査研究 平成26～28年度研究報告書 2017;291-295	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
21	Watanabe K	呼吸器内科	気腫合併肺線維症(Combined pulmonary fibrosis and emphysema:CPFE)の診断基準の作成	厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患政策事業研究 びまん性肺疾患に関する調査研究 平成26～28年度研究報告書 2017,297-298	Original Article
22	Watanabe K	呼吸器内科	PPFBと特発性肺線維症	最新医学 2016,7月;71(7):1306-1313	Review
23	Fujita M, Ikegame S	呼吸器内科	呼吸器疾患と慢性炎症: マイクロバイオームと気道炎症	Bio Clinica 慢性炎症と疾患 2017, 3月;43-46,2017	Review
24	Harada K,Kawasaki H,Nishimura R	精神神経科	うつ病休職症例に対するリワークデイクアと力動的精神療法の並行構造-直面化が重要な役割を果たした1症例-	日本サイコセラピー学会雑誌 17(1):53-61・2016.12.	Original Article
25	Yokoyama H,Tanaka K,Nagai H	精神神経科	統合失調症患者の体力について-福岡大学病院デイクア体力測定10年間を通して-	スポーツ精神医学 13:39-47・2016.8.	Original Article
26	Yokoyama H,Iida H,Yano R	精神神経科	成人の広汎性発達障害におけるスポーツ指導法について -1事例をとおして-	スポーツ精神医学 13:A15・2016.8.	Case report
27	Kashinoura N,Iida H,Kuroiwa K	精神神経科	認知症を疑われて精査入院となった神経核内封入体病の一例	臨床と研究 93(12):1660-1661・2016.12.	Case report
28	Kawaguchi T,Kawasaki H	精神神経科	メンタルヘルス関連疾患と治療 不安症	臨床と研究 93(5):609-614・2016.5.	Review
29	Ogomori K,Iida H	精神神経科	認知症? 精神疾患? 認知症と間違えやすい精神疾患の理解とケア 第3回 統合失調症と認知症の違い、ケアの留意点	認知症介護 17(2):99-104・2016.6.	Review
30	Ogomori K	精神神経科	前頭側頭型認知症の基礎知識のおさらい	認知症介護 17(3):2-9・2016.9.	Review
31	Etou N	精神神経科	トラブルを引き起こす患者対応	救急医学 40(7):815-820・2016.7.	Review
32	Kawasaki H	精神神経科	DMS-5の抑うつ障害の診断基準について	うつ病の臨床:現代の病理と最新の治療 pp.96-102・2016.7.	Review
33	Honda Y,Kawasaki H	精神神経科	うつ病の治療	これだけは知っておきたい女性とうつ病 改訂版 pp.36-45・2016.5.	Review
34	Toyama Y,Yamaguchi Y,Yoshida T	精神神経科	プログラムのつくり方を教えてください	新・精神科デイクア Q&A pp.84-87・2016.11.	Review
35	Yokoyama H,Yano R,Kawasaki H	精神神経科	暴力にはどう対応すればよいのでしょうか?	新・精神科デイクア Q&A pp.150-151・2016.11.	Review
36	Kawasaki H,Kaminiwa S,Yamada K	精神神経科	座談会 双極性障害の現況	Depression Journal Vol.4 (1):11-17・2016.4.	Others
37	Kawasaki H	精神神経科	若い人も研究も、芽をつぶさずに大切に	九州医事新報 第624号・2016.5.	Others
38	Kawasaki H	精神神経科	Mile Stone	臨床のあゆみ No.101:1-4・2016.9.	Others
39	Kawasaki H	精神神経科	Talk 大学病院は今、	Consonance 2017 Winter:10-11・2017.1.	Others
40	Etou N	精神神経科	日本の救急施設における自殺未遂者と既遂者の自殺企図手段の比較	Depression Journal Vol.4 (1):34-35・2016.4.	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
41	Etou N	精神神経科	書評『心理面接の教科書—フロイト、ユングから学ぶ知恵と技』	精神分析研究 60(3):378-379・ 2016.7.	Others
42	Etou N	精神神経科	精神分析から見た小説『空白を満たしなさい』と文人主義	日本精神分析インスティテュート福岡 支部ニューズレター19号:4-5・ 2016.12.	Others
43	Etou N	精神神経科	IPSOのIPAにおける活動について	日本精神分析インスティテュート福岡 支部ニューズレター19号:6・2016.12.	Others
44	Hatanaka A	精神神経科	「熊本地震の支援から考える」福岡大学病院精神神経科の活動について	ふくおか精神保健 第62号:94-95・ 2017.3.	Others
45	Nomura Y	小児科	化学療法中の骨減少症に対してビスフォスフォネート製剤を開始した小児急性リンパ性白血病の3症例	日本小児血液・がん学会雑誌 (vol.53(5):474-476,2016)	Case report
46	Incue T	小児科	Fabry病の新生児マススクリーニング 差分解説	日本医事新報 (vol.4790;53,2016)	Review
47	Ishii A	小児科	てんかんでの遺伝子異常	神経内科外来シリーズ4 てんかん外来 (20-27,2016)	Review
48	Sanada K, Yoshimura I, Kanazawa K	整形外科	Maisonneuve骨折の治療経験	整形外科と災害外科/65(3):493- 496,2016	Original Article
49	Hagio T, Yoshimura I, Kanazawa K	整形外科	MRI T2 mappingを用いた足関節外側不安定性を伴う距骨骨軟骨損傷の関節軟骨評価	日本足の外科学会雑誌/37(1):45- 47,2016	Original Article
50	Doi N, Shibata Y, Izaki T	整形外科	TSAにおける関節窩コンポーネントの傾きとX線透過性の検討	日本人工関節学会誌 /46:467- 468,2016	Original Article
51	Muraoka K, Soejima O	整形外科	スポーツによるTFCC損傷に対する鏡視下デブリードマンの治療成績	整形外科と災害外科/65(4)700- 702,2016	Case report
52	Shibata T, Asayama I	整形外科	チェンジابلネックシステムを用いたTHAにおける内反ショートネックと内反ロングネックのX線学的評価	日本人工関節学会誌/46:537- 538,2016	Original Article
53	Miyake S, Izaki T, Shibata Y	整形外科	リバース型人工肩関節全置換術におけるベースプレート至適設置位置の検討	日本人工関節学会誌 /46:465- 466,2016	Original Article
54	Kanazawa K, Yoshimura Y, Hagio T	整形外科	異なる術式を施行した両外反母趾の治療成績の検討 DLMO法とMau法の比較	日本足の外科学会雑誌/37(1):254- 257	Original Article
55	Matsunaga D, Hanada H, Fujiwara A	整形外科	外側円板状半月 (DLM) を伴った変形性膝関節症 (OA) にOpening wedge osteotomy を行った経験	JOSKAS/41:961-965, 2016	Original Article
56	Kiyama T, Shitama H, Iwamoto R	整形外科	外側型変形性膝関節症に対するbi-plane opening wedge大腿骨顆上内骨切り術	JOSKAS/41:200-201, 2016	Original Article
57	Watanabe R, Naitou M, Kinoshita K	整形外科	寛骨臼回転骨切り術後に二期的鏡視下手術を要した患者の検討	Hip joint/42(2):1030-1032, 2016.8.25	Original Article
58	Miyake S, Izaki T, Shibata Y	整形外科	関節窩平面上における肩甲上神経の走行位置の検討	肩関節/40(4)1091	Case report
59	Muraoka K, Soejima O	整形外科	手指CRPS様症状を呈した手掌軟部腫瘍の1例	整形外科と災害外科/65(4)658- 661,2016	Case report
60	Kinoshita S, Nobutou S, Shirati J	整形外科	Coccygeal pad に対し皮膚腫瘍切除及び尾骨切除を行った一例	整形外科と災害外科/65(3)569- 571,2016	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
61	Doi N, Shibata Y, Izaki T	整形外科	関節鏡所見により保存加療を選択した肩甲骨関節窩骨折の1例	整形外科と災害外科/65(3):497-501	Case report
62	Shibata T, Ogami H, Nakamura A	整形外科	大腿骨転子部骨折の小転子骨片により動脈損傷をきたした1例	整形外科と災害外科/65(3):523-25, 2016	Case report
63	Shibata T, Ogami H, Nakamura A	整形外科	腋窩動脈損傷が疑われた上腕骨近位端骨折の1例	整形外科と災害外科/65(1) 37-39, 2016	Case report
64	Katsuta T, Abe H, Fukuda K 他	脳神経外科	成人もやもや病患者における、開口によるdonor STAの可逆的閉塞 - Big bite ischemic phenomenon -	脳卒中の外科 44:8-12, 2016	Original Article
65	Hyakutake K, Fukuda H, Morishita T 他	リハビリテーション科	脊髄dAVF術後のロボットスーツHAL訓練に適した体幹装具の工夫	臨床と研究93(4):87-90, 2016	Original Article
66	Miki K, Yoshioka T, Hirata Y 他	脳神経外科	急性・亜急性硬膜下血腫に対する内視鏡下血腫除去術の治療成績	脳神経外科44(6):455-462, 2016	Original Article
67	Morishita T, Yatsugi A, Fukuda H 他	脳神経外科	脊椎脊髄疾患に対するロボットスーツHALを用いた訓練の有効性	脊椎脊髄ジャーナル29(7):699-705, 2016	Original Article
68	Morishita T, Inoue T	脳神経外科	ロボットスーツHALおよび単関節HAL-SJを用いた脳卒中急性期リハビリテーション	脳卒中の外科 44:302-306, 2016	Original Article
69	Ito K, Imafuku S	皮膚科	紅斑 多形滲出性紅斑	小児内科.2016 Apr;48:484-7	Review
70	Sasaki R, Ito K, Imafuku S, et al.	皮膚科	抗凝固療法中に下腿潰瘍と脳梗塞を繰り返した抗リン脂質抗体の関与が疑われた1例	西日本皮膚科.2016 Apr;78:121-124	Case report
71	Imafuku S	皮膚科	Superimposed linear psoriasis	臨床皮膚科.2016 Apr;70:57-60	Review
72	Koga M, Yoshida Y, Imafuku S.	皮膚科	神経線維腫症1型患者におけるbody mass indexと血液生化学因子について検討	日本レックリングハウゼン病学会雑誌.2016 Apr;7:73-75	Original Article
73	Masaki S, Tatsukawa R, Uchio E, et al.	皮膚科	IgG4関連涙腺炎の1例	西日本皮膚科.2016 Jun;78:239-42	Case report
74	Suzuki Y, Shibayama Y, Koga K, et al.	皮膚科	図説 上唇に生じたPleomorphic Hyalinizing Angiectatic Tumor	西日本皮膚科.2016 June;78:217-8	Review
75	Imafuku S	皮膚科	HSV感染症 STIとしてのHSV感染症	Visual Dermatology.2016 July;15:780-4	Review
76	Imafuku S	皮膚科	ウイルス感染症(第1部)ー単純ヘルペスと帯状疱疹ー	西日本皮膚科.2016 Aug;78:401-7	Review
77	Sasamoto K, Fujisaki A, Fujisaki N, et al.	皮膚科	エキシマライト療法の追加にて改善がみられた汎発性環状肉腫の1例	西日本皮膚科.2016 Aug;78:367-70	Case report
78	Ihara H, Koga M, Imafuku S	皮膚科	矯正下着の圧迫刺激により皮疹が顕在化したヒトパルボウイルスB19感染症の1例	西日本皮膚科.2016 Aug;78:382-5	Case report
79	Imafuku S, Ito K	皮膚科	紫外線療法が奏効した高IgE症候群と考えられた症例	皮膚病診療.2016 Sep;38:875-8	Case report
80	Masaki S, Shibayama Y, Nakaura J, et al.	皮膚科	多発皮膚線維腫の中にAtypical Fibrous Histiocytomaの病理像がみられたSLEの1例	西日本皮膚科.2016 Oct;78:507-11	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
81	Imafuku S	皮膚科	ウイルス感染症(第2部)ーウイルスとヒトの進化ー	西日本皮膚科.2016 Oct;78:528-34	Review
82	Ohba Y, Imafuku S	皮膚科	図説 出産後自然消退した指の毛細血管拡張性肉芽腫	西日本皮膚科.2016 Oct;78:459-60	Review
83	Ito K, Imafuku S	皮膚科	紅斑と紅皮症 多形滲出性紅斑	日本医師会雑誌.2016 Oct;145:S141-2	Review
84	Imafuku S	皮膚科	ウイルス感染症(第3部)ーウイルスとヒトの病気ー	西日本皮膚科.2016 Dec;78:660-6	Review
85	Sasaki R, Yamaguchi K, Imaizumi T, et al.	皮膚科	臍部腫瘍の2例	西日本皮膚科.2016 Dec;78:625-9	Case report
86	Sasamoto K, Fujisaki A, Fujisaki N, et al.	皮膚科	尿管管遺残の4例	臨床皮膚科. 2017Feb;71:165-70	Case report
87	Miyazaki M, Ito K, Imamura K, et al.	皮膚科	Bullous Amyloidosisの皮疹からM蛋白血症の診断に至った1例	皮膚科の臨床. 2017Mar;59:299-303	Case report
88	Matsuoka H,Tanaka M,Adachi T	泌尿器科	小児に対する腹腔鏡下経膀胱的逆流性防止術の問題点と展望	西日本泌尿器科. 2016; 78(4): 157-164	Original Article
89	Nakamura N,Tukamoto M,Shimano Y	泌尿器科	西日本地区における心停止下提供献腎移植のドナー要因の移植腎生着率への影響に関しての解析	西日本泌尿器科. 2016; 78(6): 292-298	Original Article
90	Irie S,Tanaka M	泌尿器科	CRPC患者の骨転移治療2015	西日本泌尿器科. 2016; 78(5): 236-241	Review
91	Shirota K,Hidaka N,Yopmita Y	産婦人科	抗セントロメア抗体と多前核胚:その意義と治療	日本卵子学会誌・1:35-40, 2016	Review
92	koh R	眼科	両眼に同時発症した非動脈炎性虚血性視神経症の1例	臨床眼科 70: 1493-1497, 2016	Case report
93	Mihashi Y,Sueta N,Takeshita S	耳鼻咽喉科	当科における唾液腺導管癌(salivary duct carcinoma)の検討	日本口腔・咽頭科学会雑誌 29(2):183-188 2016.6	Original Article
94	Yamano T,Sugino T,Naitou T	耳鼻咽喉科	介護老人保健施設における肺炎患者の嚥下機能の解析	嚥下医学 5:p230-235 2016.9	Original Article
95	Yamano T,Sugino Obata T	耳鼻咽喉科	嚥下障害を来したRamsay Hunt症候群	耳鼻と臨床 62(5)164-170 2016.9	Case report
96	Sakata T	耳鼻咽喉科	耳鳴とうつ病	DEPRESSION JOURNAL 4(2)20-21 2016.8	Review
97	Yamano t	耳鼻咽喉科	Ototoxicity of Acetic Acid:A Short Review	Otolaryngology: Open Access 6(4) 2016.7	Review
98	Sakata T	耳鼻咽喉科	聴覚検査のコツ	ENTONI 201:9-13 2017.1	Review
99	Sakamoto K	放射線科	画像から読み解く感染症(15): VI 上腹部・消化管 2. 気腫性胆嚢炎	化学療法の領域32(9): 1602-1307 2016 Sep.	Review
100	Izuno Y	放射線部	診断参考レベル(DRL)運用の実際 血管造影部門におけるDRLを用いた線量管理 実測と電子データの面からの報告	INNERVISION 31(12): 38-40 2016Nov.	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
101	Imasato T	放射線部	CTにおける線量管理システム「Radimetrics」の使用経験	映像情報Medical48(13): 29-34 2016 Dec.	Review
102	Yoshimitu K	放射線科	胆嚢癌・胆管 総論	肝胆膵のCT・MRI (編) 本田 浩、角谷 眞澄、吉満研吾、蒲田敏文、入江裕之 p. 244-273, (株)メディカル・サイエンス・インターナショナル2016Apr.	Others
103	Fujimitu R	放射線科	胆嚢癌・胆管 1. 発生異常・手術に必要な画像解剖－先天性胆道拡張症	肝胆膵のCT・MRI (編) 本田 浩、角谷 眞澄、吉満研吾、蒲田敏文、入江裕之 p. 278-279, (株)メディカル・サイエンス・インターナショナル2016Apr.	Others
104	Morita A	放射線科	胆嚢癌・胆管 3. 胆嚢結石－胆嚢結石:CT所見・検出率	肝胆膵のCT・MRI (編) 本田 浩、角谷 眞澄、吉満研吾、蒲田敏文、入江裕之 p. 306-307, (株)メディカル・サイエンス・インターナショナル	Others
105	Morita A	放射線科	胆嚢癌・胆管 3. 胆嚢結石－胆嚢結石:MRCP所見・検出率	肝胆膵のCT・MRI (編) 本田 浩、角谷 眞澄、吉満研吾、蒲田敏文、入江裕之 p. 308-309, (株)メディカル・サイエンス・インターナショナル	Others
106	Urakawa H	放射線科	胆嚢癌・胆管 4. 胆管結石－胆管結石:CT所見・検出率	肝胆膵のCT・MRI (編) 本田 浩、角谷 眞澄、吉満研吾、蒲田敏文、入江裕之 p. 310-311, (株)メディカル・サイエンス・インターナショナル 2016Apr.	Others
107	Fujimitu R	放射線科	胆嚢癌・胆管 4. 胆管結石－胆管結石:MRCP所見・検出率	肝胆膵のCT・MRI (編) 本田 浩、角谷 眞澄、吉満研吾、蒲田敏文、入江裕之 p. 312-313, (株)メディカル・サイエンス・インターナショナル 2016Apr.	Others
108	Shinagawa Y	放射線科	胆嚢癌・胆管 10. 症候群－Mirizzi症候群	肝胆膵のCT・MRI (編) 本田 浩、角谷 眞澄、吉満研吾、蒲田敏文、入江裕之 p. 350-351, (株)メディカル・サイエンス・インターナショナル 2016Apr.	Others
109	Shinagawa Y	放射線科	胆嚢癌・胆管 10. 症候群－Lemmel症候群	肝胆膵のCT・MRI (編) 本田 浩、角谷 眞澄、吉満研吾、蒲田敏文、入江裕之 p. 352-353, (株)メディカル・サイエンス・インターナショナル 2016Apr.	Others
110	Koura S	放射線科	胆嚢癌・胆管 11. 胆道出血－胆道出血	肝胆膵のCT・MRI (編) 本田 浩、角谷 眞澄、吉満研吾、蒲田敏文、入江裕之 p. 354-356, (株)メディカル・サイエンス・インターナショナル2016Apr.	Others
111	Yoshimitu K	放射線科	肝細胞相での取り込み(必ずしも肝実質より高信号を意味しない)	Key所見からよむ肝胆膵脾の画像診断: 肝臓編 (監) 村上卓道 (編) 吉満研吾、兼松雅之、赤羽正章、鶴崎正勝 p.253-260, (株)メディカルビュー社 2016Apr.	Others
112	Yoshimitu K	放射線科	肝細胞相でのリングエンハンスメント	Key所見からよむ肝胆膵脾の画像診断: 肝臓編 (監) 村上卓道 (編) 吉満研吾、兼松雅之、赤羽正章、鶴崎正勝 p.261-266, (株)メディカルビュー社 2016Apr.	Others
113	Yoshimitu K	放射線科	消化器 (B) 胆嚢・胆道の撮像法	画像診断ガイドライン 2016年版、日本医学放射線学会(編) p 268-272 金原出版 2016 Sep.	Others
114	Yoshimitu K	放射線科	消化器 (CQ87) 急性胆管炎が疑われた場合、行うべき画像検査は何か?	画像診断ガイドライン 2016年版、日本医学放射線学会(編) p 326-327 金原出版 2016 Sep.	Others
115	Fujimitu R	放射線科	乳房 (CQ 158) 乳房温存療法後の乳房の局所再発の定期的経過観察にCT、MRI、超音波を推奨するか?	画像診断ガイドライン 2016年版、日本医学放射線学会(編) p 518-519 金原出版 2016 Sep.	Others
116	Yoshimitu K	放射線科	特集アドバンストコース[2016年2月号特集] 肝腫瘍性病変の画像、病理、臨床	臨床画像 32(5): 568-570 2016 Apr.	Others
117	Takamatsu Y	腫瘍・血液・感染症内科	初期治療－移植非適応例	日本臨床 多発性骨髄腫学-最新の治療と基礎研究 74(増5):390-394,2016.7	Review
118	Takamatsu Y	腫瘍・血液・感染症内科	MGUS、くすり型骨髄腫への対応	臨床腫瘍ブレイクティス12(3):239-243,2016.8	Review
119	Takamatsu Y	腫瘍・血液・感染症内科	多発性骨髄腫における改訂ISS	血液内科 73(2):256-261,2016.8	Review
120	Takamatsu Y	腫瘍・血液・感染症内科	1. 高齢者によくみられるがん薬物療法 5) 悪性リンパ腫	老年医学 54(12):1269-1273,2016.12	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
121	Sasaki H, Takamatsu Y	腫瘍・血液・感染症内科	白血病の治療 各論(化学療法と分子標的療法) 15.慢性リンパ性白血病、前リンパ性白血病	日本臨床 増刊号 白血病学(下) 196,2016.12	Review
122	Sasaki H, Tamura K	腫瘍・血液・感染症内科	アントラサイクリン系薬剤による心毒性	Cardiac Practice 27(2):37-41,2016.5	Review
123	Takamatsu Y	腫瘍・血液・感染症内科	高齢造血管腫瘍患者の治療に対する考え方	がん看護増刊号 22(2):253-257,2017.2	Review
124	Shigeoka T, Nomiya T, Takada A. et al	内分泌・糖尿病内科	2型糖尿病患者におけるDPP-4阻害薬テネグリプチンの血糖変動に対する効果の検討	日本体質医学会雑誌 78(1):18-24, 2016	Original Article
125	Nakashima H	腎臓・膠原病内科	Pathogenesis of IgG4-related Kidney Disease IgG4-Related Kidney Disease	IgG4-Related Kidney Disease Saito T, Stone JH, Nakashima H, Saeki T, Kawano M ed. Springer 2016 Chapter 18.	Review
126	Miyake K, Nakashima H	腎臓・膠原病内科	臨床検査の最新情報 免疫学検査 自己抗体検査の今	臨床と研究 93;1083-1087, 2016	Review
127	Watanabe R, Ito K, Yasuno T	腎臓・膠原病内科	長期にわたり腎機能が維持された、AAおよびAL混合型アミロイドーシスの一例	日本腎臓学会誌 58(5):668-674, 2016	Case report
128	Watanabe R, Abe Y, Sasaki M	腎臓・膠原病内科	急性腎障害を呈した若年者の微小変化型ネフローゼ症候群の1例	日本腎臓学会誌 58(2):114-119, 2016	Case report
129	Nakamura Y, Nakano T, Irie K, et al.	救命救急センター	Recombinant human soluble thrombomodulin ameliorates cerebral ischemic injury through a high-mobility group box 1 inhibitory mechanism without hemorrhagic complications in mice.	Journal of the Neurological Sciences 362:278-278, 2016	Original Article
130	Nishida T, Tsubota M, Kawaiishi Y, et al.	救命救急センター	Involvement of high mobility group box 1 in the development and maintenance of chemotherapy-induced peripheral neuropathy in rats.	Toxicology365:48-58, 2016	Original Article
131	Kawano Y, Morimoto S, Izutani Y, et al.	救命救急センター	Augmented renal clearance in Japanese intensive care unit patients: a prospective study.	Journal of Intensive Care4:62. , 2016	Original Article
132	Kawano Y, Nishida T, Togawa A, et al.	救命救急センター	Surveillance of Extended-Spectrum β -Lactamase-producing Enterobacteriaceae Carriage in a Japanese Intensive Care Unit: a Retrospective Analysis	Korean Journal of Critical Care Medicine31(4): 317-323, 2016	Original Article
133	Adachi S, Miura S, Shiga Y, et al.	救命救急センター	Depressor and Anti-inflammatory Effects of Angiotensin II Receptor Blockers in Metabolic and/or Hypertensive Patients With Coronary Artery Disease: A Randomized, Prospective Study (DIAMOND Study).	Journal of Clinical Medicine Research 8(10): 743-748, 2016	Original Article
134	Motozato K, Miura SI, Shiga Y, Kusumoto T, Saku K.	救命救急センター	Efficacy and Safety of a Single-Pill Fixed-Dose Combination of Azilsartan and Amlodipine.	Journal of Clinical Medicine Research8(12):888-892., 2016	Original Article
135	Motozato K, Miura S, Shiga Y, et al.	救命救急センター	Efficacy and safety of two single-pill fixed-dose combinations of angiotensin II receptor blockers/calcium channel blockers in hypertensive patients (EXAMINER study).	Clinical and Experimental Hypertension38(1): 45-50, 2016	Original Article
136	Nakamura Y, Ishikura H, Kushimoto S, et al.	救命救急センター	Fibrinogen level on admission is a predictor for massive transfusion in patients with severe blunt trauma: Analyses of a retrospective multicentre observational study.	Injury48(3):674-679, 2017	Original Article
137	Nakamura Y, Ishikura H, Kushimoto N	救命救急センター	来院時凝固・線溶系マーカーによる大量輸血予測 フィブリンノーゲン値による予測の可能性	日本外傷学会雑誌30(3):348-355, 2016	Original Article
138	Hoshino K, Nakamura Y, Ookura Y	救命救急センター	ショックを呈した外傷性脾損傷におけるnon-operative managementの有効性と限界	日本外傷学会雑誌30(4):438-443, 2016	Original Article
139	Nakamura Y, Uchiyama M, Hara S, et al.	救命救急センター	Therapeutic Dose Monitoring for Linezolid in a Patient with MRSA Pneumonia with Bacteremia in Diabetes Insipidus.	Infectious Diseases and Therapy5(1): 81-87, 2016	Case report
140	Kawano Y, Nagashima R, Morimoto S, et al.	救命救急センター	Efficacy of direct hemoperfusion with a polymyxin B-immobilized fiber column in miliary tuberculosis.	Acute Medicine & SurgeryDOI: 10.1002/ams2.258, 2016	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
141	Kanayama H,Nishizawa S,Izutani Y	救命救急セン ター	Edwardsiella tardaによる感染性腸炎から急性胆嚢炎、肝 臓膿瘍を来し、敗血症性ショックとなり、腸腰筋膿瘍を合併 した1例	日本救急医学会雑誌27(6) :192- 198, 2016	Case report
142	Izutani Y,Morimoto S, Kanayama H	救命救急セン ター	食塩過剰摂取により食塩中毒を来した1例	日本救急医学会雑誌27(8) :251- 255, 2016	Case report
143	Kawano Y,Nakamura Y,Murai A	救命救急セン ター	高用量のインドメタシンが奏功した腎性尿崩症の1例	日本集中治療医学会雑誌23(3): 313-317, 2016	Case report
144	Hoshino K, Mizunuma M, Yamasaki R,et al.	救命救急セン ター	Rapid progression of Candida tropicalis in a case with severe sepsis.	日本集中治療医学会雑誌23(5) : 593-594, 2016	Case report
145	Hirose Ryuichiro	総合周産期母 子医療センター	Rectal Biopsy	Operative General Surgery in Neonates and Infants 73-76,Date:24 June 2016	Others
146	Hirose Ryuichiro	総合周産期母 子医療センター	Hirschsprung disease	Operative General Surgery in Neonates and Infants 239-245,Date:24 June 2016	Others
147	Makiko Yuki	臨床検査部	福岡大学病院におけるB型肝炎ウイルス再活性化の調 査解析	臨床病理 Vol.64(6)2016	Original Article
148	Hirofumi Shimada	臨床検査部	CAS術後のin-stent plaque protrusionの観察に頸部血 管造影超音波検査が有用であった1症例	脳卒中Vol38,2016	Case report
149	Masahiro Ochi	臨床検査部	t-PA・PAI-I 複合体測定試薬「ナノピアPAI-I」の基礎的 検討	医学と薬学 Vol74(1),2017	Original Article
150	Hirofumi Shimada	臨床検査部	超音波検査による潰瘍型頸動脈プラークの特徴	超音波検査技術 Vol42(1),2017	Original Article
151	Yuka Hitaka, et al (Yuka Yoshimine)	臨床検査部	CVポートカテーテル留置下で右房内異常構造物を認め た1例	臨床と研究, 94(2):91-94, 2017	Case report
152	Hiroshi Shimada, et al	臨床検査部	超音波検査による潰瘍型頸動脈プラークの特徴	超音波検査技術, 42(1):18-23, 2017	Original Article
153	Mitsuhiro Kamada, Takahumi Nakano, Daiki Hagiwara, et al.	薬剤部	左心系感染性心内膜炎においてダプトマイシンが有効 であった一例	薬理と治療, 44, 1507-1511(2016)	Case report
154	Yuki Yasutaka, Shinsuke Fujioka, Mariko Terasawa, et al.	薬剤部	リバスタチン貼付剤の投与継続に及ぼすメマンチンの 影響—ロジスティック回帰分析を用いた後方視的研究—	YAKUGAKUZASSHI, 137, 121-125 (2017)	Original Article
155	Norihiro Moriwaki, Motoyasu Miyazaki, Shoichi Shiozuka, et al.	薬剤部	院内感染制御チームの介入による抗菌薬の薬剤費削減 効果	日本病院薬剤師会雑誌, 53, 299- 303(2017)	Original Article
156	Chika Kubota, Kentaro Ogata, Emi Nishida, et al.	薬剤部	外来がん化学療法における病院・薬局間の情報共有に 関する実態調査と連携に向けた取り組み	癌と化学療法, 43, 1375-1380(2016)	Original Article
157	Kentaro Ogata, Kazuo Tamura, Fumiaki Kiyomi, et al.	薬剤部	高齢者への多剤投与ががん化学療法に影響を及ぼす 因子に関する後方視的探索研究	癌と化学療法, 43, 2523-2529(2016)	Original Article
158	Shintaro Yamasaki ¹⁾ , Hiroki Hatamoto ¹⁾ , Yoshihiko Nakamura ²⁾ et al.	臨床工学セン ター	エンドキシン吸着療法の施行時間が血小板減少に及 ぼす影響	エンドキシン血症救命治療研究会 誌・第20巻第1号 2016	Original Article

小計18
合計158

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 構成、開催要件、審議、通知	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ポリシー、委員会内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容 医学系研究倫理指針、研究不正、利益相反、ヒトゲノム指針	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・循環器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・消化器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・呼吸器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・精神神経科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・小児科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・呼吸器・乳腺内分泌・小児外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・整形外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・形成外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・脳神経外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・心臓血管外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・皮膚科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・泌尿器科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・産婦人科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・眼科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・耳鼻咽喉科後期臨床研修プログラムに基づく研修
- ・放射線科後期臨床研修プログラムに基づく研修

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 77.3人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
三浦 伸一郎	循環器内科	主任教授	23年	
向坂 彰太郎	消化器内科	主任教授	38年	
渡辺 憲太郎	呼吸器内科	主任教授	40年	
川崎 弘詔	精神神経科	主任教授	32年	
廣瀬 伸一	小児科	主任教授	37年	
大慈弥 裕之	形成外科	主任教授	37年	
岩崎 昭憲	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	主任教授	34年	
山本 卓明	整形外科	主任教授	27年	
井上 亨	脳神経外科	主任教授	37年	
和田 秀一	心臓血管外科	主任教授	26年	
今福 信一	皮膚科	主任教授	26年	
田中 正利	泌尿器科	主任教授	37年	
宮本 新吾	産婦人科	主任教授	34年	
内尾 英一	眼科	主任教授	32年	
坂田 俊文	耳鼻咽喉科	主任教授	31年	
吉満 研吾	放射線科	主任教授	31年	
石倉 宏恭	救命救急センター	主任教授	31年	
山浦 健	麻酔科	主任教授	25年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 院内教育（全職員対象）・研修の期間・実施回数 平成28年度 11回開催・研修の参加人数 医療安全 5,164名、感染 4,268名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 新採用者に対する研修・研修の期間・実施回数 4月上旬～中旬 2日間 計4回・研修の参加人数 146名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 メディカルセミナー・研修の期間・実施回数 平成28年度 3回開催・研修の参加人数 274名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 井上 亨	
管理担当者氏名	庶務課長 赤木須美男 医療情報部事務室長 小陽賢一 薬剤部長 神村英利	医事課長 羽谷勝也 放射線部技師長 田中稔

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	手術部
		看護記録	看護部
		検査所見記録	検査部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医事課
退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			平成21年8月5日より、入院診療録及び外来診療録共に電子カルテの運用を開始。電子カルテシステム稼働以前の紙に記載された入院診療録は入院期間ごとに作成されターミナルディジエット方式にて分類保管し、外来診療録は全診療科共通として作成され、患者番号順に保管。電子カルテシステムにおいても紙診療録と同様に、全て一患者一登録番号で管理している。電子カルテシステム稼働後に作成された紙診療記録は、前述の入院診療録、外来診療録と同様に入外別に保管。なお、入院診療録は最終来院日から20年間、外来診療録は15年間保管され、それ以上経過したものは廃棄。手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書はそれぞれの診療録に保管。
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	庶務課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課
		高度の医療の研修の実績	庶務課
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携センター
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課
		先進医療実績報告(帳票管理)	
		紙媒体で台帳保管、またデータ保管を行っている	

掲げる事項	規則第一条の十一第一項に	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	る。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	医療安全管理部にて一括管理
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	以下項目、上記と同じ
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部 医療安全管理部 庶務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター
			感染制御部にて管理
			以下項目、上記と同じ
			薬剤部にて一括管理
			以下項目、上記と同じ
			臨床工学センターにて一括管理
			以下項目、上記と同じ

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		
		医療安全管理部	医療安全管理部にて一括管理 以下項目、上記と同じ

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	事務長 立花 時弘		
閲覧担当者氏名	庶務課長 赤木 須美男、医事課長 羽谷勝也 医療情報部事務室長 小陽賢一		
閲覧の求めに応じる場所	病院西別館3階B会議室		
閲覧の手続の概要			
閲覧希望者は、閲覧受付窓口である庶務課に諸記録を閲覧したい旨を申し出る。閲覧受付窓口は、これを受け閲覧担当者に連絡し、日程調整のうえ、閲覧担当者同席のもと病院西別館3階B会議室で諸記録を閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 安全管理に関する基本的考え方2. 安全管理のための委員会および院内の組織に関する基本事項3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針4. 安全確保を目的とした改善策を講ずるための基本方針5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. 患者からの相談への対応に関する基本方針8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (有・無)・ 開催状況：年 12 回・ 活動の主な内容：医療安全管理委員会 (1 回/月)	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年13回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全院内教育 9 回2. 医療安全実践セミナー 4 回	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療事故・合併症・重要なインシデント事例の検討・医療安全教育の企画。2. 医療安全管理者が抽出したインシデント事例を医療安全管理部小委員会で検討し、改善を要するものはセーフティマネージャー会を通じて伝達している。また、全職員に電子カルテ掲示板で会議資料を公開し、安全管理・危機管理意識の向上に努めている。3. 医療安全管理責任者および医療安全管理者は、事故・インシデント・合併症発生時など、必要に応じて当事者、当該部署と個別に対応し指導する。特に重要事例に関しては、検討会を開いて、迅速な対応を心掛けている。4. 病院全体の問題として取り上げる必要がある事例は、医療安全管理委員会に提言し、安全管理の改善に役立てる。5. 「安全管理レポート」(毎月)と「医療安全情報」(適時)を発行し、全職員へフィードバックおよび周知徹底を図っている。6. 医療安全管理院内ラウンドを月 1 回実施し、現状把握および周知徹底を図っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
・ 指針の主な内容： 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会および院内の組織に関する基本事項 3. 感染対策に関する教育・研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応 6. 感染対策の閲覧に関する基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： ・ 感染対策委員会（1回/月） ・ 感染制御部会議（1回/月） ・ セーフティマネージャー会議（1回/月） ・ 看護部院内感染対策委員会（1回/月）	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年13回
・ 研修の主な内容： 1. 医療安全院内教育 5回 2. 医療安全実践セミナー 8回	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 「院内感染対策のための指針」に即した院内感染対策マニュアルを整備し、遵守状況を院内各部署のラウンドで確認している。 2. 1回/週、ICT（ICD、感染管理認定看護師（CNIC）、臨床検査技師、薬剤師の4職種）が院内各部署のラウンドを行い、耐性菌ラウンド、環境ラウンドを実施している。耐性菌ラウンドに際しては、資料（細菌検査室で全部署2週間分の分離菌一覧表、薬剤部で抗MRSA使用患者一覧表、カルバペネム系抗菌薬使用患者一覧表、CNICが病棟別耐性菌検出患者一覧表、ラウンドシート）を毎回準備している。 3. 感染対策支援システム（電子カルテ端末上）で毎日、血液培養陽性者、抗酸菌陽性者、新規多剤耐性菌検出患者等の報告を確認し、感染対策について情報共有している。また、毎週1回以上、ICTミーティングを行っている。 4. 院内感染を疑う場合には適宜、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。 5. 行政への報告対応が必要な場合には、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応する。 6. アウトブレイク等問題が発生した部署については、適宜介入し、当該部署のスタッフを対象に研修会を開催している。アウトブレイク介入事例については、病院職員に対して電子カルテ端末上で通知し、診療部長会、セーフティマネージャー会を通じて感染対策について周知徹底を図っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年22回
・ 研修の主な内容： 1. 注意すべき医薬品の取り扱いについて 3. 簡易懸濁法について 4. 透析患者に関わる薬剤について 5. 乳がんの化学療法について 6. 向精神薬について 7. 知っておくべき薬剤の知識 8. 抗がん剤の安全な扱い など	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： ○医薬品の採用：薬事委員会において、医薬品安全管理責任者の立場で採用の可否を審議。 ○医薬品の管理：各部署で手順書業務確認表を用いて期限等を確認、月単位で医薬品安全管理責任者が確認。電子カルテシステムを用いた臨時購入医薬品の管理。 ○患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項：注射払い出しシステムによるバーコード認証の導入。 ○患者に対する与薬や服薬指導に関する事項：薬剤管理指導業務の推進。 ○医薬品情報の収集・提供：医薬品情報室による情報収集と発信、副作用報告の一元管理。 ○他施設との連携：病棟担当薬剤師による持参薬の確認。退院時指導による薬薬連携の推進。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 調剤支援システムのチェック機能を利用して適応外、禁忌処方の情報収集。 2. 複数規格のあるものは、処方箋印字の棚番が異なるように工夫。 3. 電子カルテシステムを利用した日数制限、注射不可手技、極量(1日量、1回量)設定を開始。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年65回
・ 研修の主な内容： 新規導入機器の研修 21回 新規・その他各種研修の主な内容は、人工呼吸器・生体情報モニター 輸液ポンプ・シリンジポンプの実践セミナー、人工呼吸器、透析装置、気腹装置、電気メス 神経刺激装置、補助循環装置、保育器、除細動器などの研修	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、AED、閉鎖式保育器 麻酔器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、経腸栄養ポンプ、生体情報モニター、医用テレメータ パルスオキシメータ、12誘導心電計、低圧持続吸引器、超音波/非加熱式ネブライザー 逐次型空気マッサージ器、移動型X線装置、外科用内視鏡装置、電気手術装置、電動油圧手術台 体温管理装置、体外式ペースメーカー、顕微鏡、ポータブル吸引器、自己血回収装置 開放式保育器、BISモニター、神経刺激モニター、内視鏡用灌流装置、LED光線治療器、分娩監視装置 呼気炭酸ガスモニター、酸素テント、眼科関連、内視鏡センター関連、放射線部関連	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 情報収集：医薬品医療機器総合機構、日本臨床工学技士会、日本医療機能評価機構、日本医療安全調 査機構、厚生労働省、その他学会による安全情報の収集、メーカーによる安全情報の収集 情報の周知：医療安全委員会での報告 院内セーフティマネージャー会での報告 院内オーダリング画面上に安全情報の掲載 関連部署への安全情報資料の配布 医療機器の安全使用：臨床工学技士の研修 医療従事者への研修・実践・説明会	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無								
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理者責任者は以下のように医療安全管理部門等を統括している。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病院長と連携し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務の管理・指導を行っている。2. 医師・薬剤師・看護師の医療安全専従者の業務の管理指導を行っている。3. 専門分野責任者と連携し、各部門の医療安全を推進・指導している。4. 医療事故発生時は、事故調査委員会、事故対策委員会における病院長の支援を行い、医療安全上の課題への対策について職員への周知、指導を行っている。									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (12名) ・無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ol style="list-style-type: none">1. 薬剤部薬品情報担当室に情報収集、整理、周知に関する手順を提示2. 業務手順に関して 10 月の診療部長会議にて承認後、実施予定 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none">1. 適応外、禁忌使用処方について、調剤支援システムを用いて抽出する。 <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <table border="0" data-bbox="175 1344 1276 1568"><tr><td>(所属：薬剤部，職種 薬剤師)</td><td>(所属： ， 職種)</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種)</td><td>(所属： ， 職種)</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種)</td><td>(所属： ， 職種)</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種)</td><td>(所属： ， 職種)</td></tr></table>		(所属：薬剤部，職種 薬剤師)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)
(所属：薬剤部，職種 薬剤師)	(所属： ， 職種)								
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)								
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)								
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無								
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：毎月診療科・部署の医師・看護師に対してインフォームドコンセント記録を基に、説明日時・場所、同席者 (医療者・患者の家族)、患者・家族の反応等が記載されているか等の事項について監査を行っている。不備が認められる場合はインフォームドコンセント委員会から部署に改善指導を</p>									

行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療記録管理責任者として医療情報部長を、各診療科・部門に関する診療記録の管理担当者として各部門の長を配置している。

診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療記録管理責任者である医療情報部長の管理のもと、診療情報管理士を中心に①各病棟ラウンドによる入院診療計画書・同意書等の監査②入院診療計画書の作成率管理③入院カルテ庫受領時の診療記録の確認④退院サマリの回収率管理⑤指導料などのカルテ記載内容の確認⑥研修医カルテの承認状況などの診療記録の監査を実施し、不備訂正の依頼や指導を当事者へ直接実施するとともに、病院執行部、病床管理責任者連絡会（病棟医長・医局長出席）、診療部長会へ監査状況報告を実施している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・所属職員：専従（４）名、専任（ ）名、兼任（８）名

うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（２）名

うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名

うち看護師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

医療安全管理部は、医療の安全に必要な指導、安全対策の推進、患者の相談に関する業務を行う。

1. 医療法施行規則に基づく業務

ア. 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。

イ. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分なされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。

ウ. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。

エ. 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。

オ. 医療安全に係る連絡調整に関すること。

カ. 高難度新規医療技術導入及び新規未承認医薬品等の使用の適否を決定する担当部門としての役

割を担う。

キ. その他医療安全対策の推進に関すること。

2. 医療安全管理委員会で決定した方針に基づく業務

ア. 医療安全カンファレンスで用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全カンファレンスの庶務に関すること。

イ. 医療安全管理部小委員会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全管理部小委員会の庶務に関すること。

ウ. セーフティマネジャー会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他セーフティマネジャー会の庶務に関すること。

エ. 事例検討会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他事例検討会の庶務に関すること。

オ. 患者および家族からのご意見・ご要望相談（医療紛争を除く）の対応に関すること。

カ. 相談内容に応じた関係部署及び関係機関との連絡調整に関すること。

キ. その他医療安全管理部長が必要と認めた業務に関すること

・ H28年4月から毎月手術時の血栓予防策実施状況、インフォームドコンセントの実施状況、輸血時のPDA認証状況等についてモニタリングを行い、診療状況の把握に努めている。

・ 院内ラウンドを毎月実施し、職員の医療安全に関する意識を把握し、意識向上のための方策を検討している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）

・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無）

・ 活動の主な内容：

1. 診療科の長から高難度新規医療技術の提供の適否について申請を受理したときは、申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。

2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等を決定し、申請を行った診療科の長に対し、その結果を適否結果通知書により通知する。

3. 当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認められるときは、診療録等の記載内容を確認する。

4. 高難度新規医療技術の提供が適正な手続きに基づいていたかについて、医療提供者の遵守状況の

確認を行う。

5. 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び医療提供者の遵守状況について確認したときは、その内容を病院長に報告する。

6. 高難度新規医療技術提供の評価に関する資料、議事録及び遵守状況確認記録は確認の日から5年間保存する。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 無)

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 無)

・ 活動の主な内容：

1. 担当部門の長は、診療部長から未承認新規医薬品等の使用の申請があったときは、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対し、当該未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求める。

2. 担当部門の長は、委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定し、申請のあった診療部長に対しその結果を通知する。

3. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認める場合には診療録の記載内容を確認する。

4. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかについて、従業者の遵守状況の確認を行う。

5. 未承認新規医薬品等の提供の適否等について決定した場合及び従業者の遵守状況について確認した場合は、その内容を病院長に報告する。

6. 未承認新規医薬品等の評価に関する審査資料、議事録及び遵守状況確認記録は、確認の日から5年間保存しなければならない。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑨ 監査委員会の設置状況

(有 無)

・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ※第 1 回：平成 29 年 9 月 14 日開催 第 2 回：未定

・ 活動の主な内容：

1. 監査対象期間の医療安全管理者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務実績

についてヒヤリングと記録を用いて監査する。

2. 医療安全管理部門の各委員会、カンファレンス、活動内容について当事者からのヒヤリングと議事録及び実施記録を用いて監査する。

3. 必要に応じ、病院長及び開設者に対し、医療に係る安全については是正措置を講ずるよう意見を表明する。

4. 管理者は業務結果について病院ホームページに公表する。

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 無)

・ 委員名簿の公表の有無 (有 無)

・ 委員の選定理由の公表の有無 (有 無)

・ 公表の方法：病院ホームページ

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
石倉 宏恭	福岡大学病院		院内監査委員	<input checked="" type="radio"/> 有 無	1
田中 芳明	久留米大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
北野 登美子	久留米大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 337 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 614 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
診療科に対して、全死亡事例について「死亡・死産事例報告書」の医療安全管理部への提出を義務付けている。また、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したときは、特異事例として当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関して速やかな報告を求めている。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：東京慈恵会医科大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：東京慈恵会医科大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
訪問側の所見及び受入れ側の改善策を記載した相互ラウンド実施報告書を作成し、相互に内容を確認している。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
当該部署及び医療安全管理部にて対応する。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

別紙参照

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況
医療安全管理責任者 日本病院会 医療安全管理者養成講習会

	日本医師会 医療事故調査制度トップセミナー
医療安全管理者	国際医療リスクマネジメント学会 医療安全倫理・モラル研修会 2016 九州厚生局 平成 28 年度医療安全に関するワークショップ
医薬品安全管理責任者	日本病院薬剤師会 平成 28 年度医薬品安全管理責任者等講習会 国際医療安全リスクマネジメント学会 医療安全教育セミナー2016 冬季 国際医療安全リスクマネジメント学会 医薬品安全管理研修会 2016 秋季 九州厚生局 平成 28 年度医療安全に関するワークショップ 平成 28 年度国公立大学附属病院医療安全セミナー 認定病院患者安全推進協議会 平成 28 年度 チーム医療研修会 日本医師会 医療事故調査制度トップセミナー
医療機器安全管理責任者	平成 28 年度国公立大学附属病院医療安全セミナー 九州厚生局 平成 28 年度医療安全に関するワークショップ

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

H28年度医療安全・感染対策院内教育実施状況

	予定日	時間	対象	テーマ予定	場所
第1回	4月26日(火)	17:00~18:00	全職員	安全 「医療安全管理2016」 講師:坪井義夫先生(医療安全管理部長) 感染 「感染制御2016」 講師:高田徹先生(感染制御部長)	RI講義棟
第2回	5月17日(火)	17:00~18:00	全職員	安全 「特定機能病院に求められる医療安全」 講師:後 信 先生 ((公財)日本医療機能評価機構、 九州大学病院 医療安全管理部教授)	RI講義棟
第3回	6月29日(水)	17:00~17:30	全職員	安全 「インフォームドコンセントと記録」 講師:川崎弘詔先生 (インフォームドコンセント委員会委員長、精神神経科教授)	RI講義棟
第4回	7月28日(木)	17:00~18:00	全職員	感染 「グローバル時代の 感染症とその対策 ～いま、そこにある危機～」 講師:泉川公一先生(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 感染免疫学講座 臨床感染症学分野学講座教授)	RI講義棟
第5回	8月9日(火)	17:00~17:30	全職員	安全 「小児虐待」 講師:藤田貴子先生(こども虐待対策委員、小児科医師) 松本祐佳里先生(小児看護専門看護師)	RI講義棟
第6回	9月 29日(木)	17:00~18:00	全職員	安全 「医療安全報告」(20分) 講師:佐藤啓介 先生(消化器外科セーフティマネジャー) 山下美貴 主任看護師(6階東病棟) 「情報管理2016」(15分) 講師:志村英生 先生(医療情報部長) 感染 「検体採取と安全な搬送 それって正しい??」(25分) 講師:藤洋美 先生(臨床検査部主任:認定臨床微生物検査技師)	RI講義棟
第7回	10月14日(金)	17:00~18:00	全職員	安全 「認知症患者対応」(15分) 講師:尾籠晃司 先生(精神神経科副部長) 岩本知恵美 先生(認知症看護認定看護師) 「熊本地震から学ぶ災害への備え」(20分) 講師:山浦章平 先生(救命看護認定看護師) 感染 「感染症トリアージについて」(25分) 講師:小林加奈江 先生(感染管理認定看護師)	RI講義棟
第8回	11月2日(水)	17:00~18:00	全職員	安全 「患者が望む医師像」 講師:山口育子先生 NPO法人ささえあい医療人権センター 理事長	RI講義棟
第9回	12月 8日(木)	17:00~17:30	全職員	感染 「抗菌薬の適正使用」 講師:塩塚昭一 先生 (薬剤部:日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師)	RI講義棟
第10回	1月13日(金)	17:00~17:30	全職員	安全 「一般病棟で遭遇する脳卒中」(15分) 講師:緒方利安先生(神経内科・健康管理科講師) 竹下恵美(脳卒中リハビリテーション看護認定看護師) 「褥瘡」(15分) 講師:高木誠司先生(褥瘡対策室長、形成外科診療部長) 直海倫子先生(皮膚・排泄ケア認定看護師)	RI講義棟
第11回	2月 7日(火)	17:00~17:30	全職員	安全 「CVCガイドライン見直し」 講師:岩下耕平先生(麻酔科医師) 「医療安全報告」 講師:消化器センター	RI講義棟

主催：医療安全管理部、感染制御部

H28年度医療安全・感染対策実践セミナー実施状況

	予定日	時間	対象 定員	テーマ予定	場所
第1回	5月24日(火)	17:00～18:00	医師 看護師 30名	感染 「正しい血液培養の採り方」 講師:戸川温先生(腫瘍・血液・感染症内科助教、感染制御部) 小林加奈江先生(感染管理認定看護師)	腫瘍センター ミーティング室 (本館1階)
第2回	6月21日(火)	17:00～18:00	医師 看護師 30名	感染 「正しい血液培養の採り方」 *5月・1月と同内容です。 講師:戸川温先生(腫瘍・血液・感染症内科助教、感染制御部) 小林加奈江先生(感染管理認定看護師)	腫瘍センター ミーティング室 (本館1階)
第3回	7月12日(火)	17:00～18:00	全職員 40名	感染 「安全な尿道留置カテーテルの管理」 講師:小林加奈江先生(感染管理認定看護師) メディコン(株)担当者	腫瘍センター ミーティング室 (本館1階)
第4回	8月23日(火)	17:00～18:00	全職員 30名	感染 「N95マスクの正しい着用 シールテスト」 *2月と同内容です 講師:小林加奈江先生(感染管理認定看護師)	多目的室
第5回	9月13日(火)	17:00～18:00	全職員 50名	感染 「安全な尿道留置カテーテルの管理」 *7月と同内容です 講師:小林加奈江先生(感染管理認定看護師) メディコン(株)担当者	多目的室
第6回	10月18日(火)	17:00～18:00	全職員 60名	感染 「血管カテーテル～ドレッシング固定の極意～」 講師:小林加奈江先生(感染管理認定看護師) 3M担当者	多目的室
第7回	11月21日(月)	17:00～18:00	全職員 40名	安全 「閉鎖式気管吸引法の正しい手順」 *2月と同内容です 講師:安倍朋子(集中ケア認定看護師) ハリヤードヘルスケアインク担当者	多目的室
第8回	1月17日(火)	17:00～18:00	医師 看護師 30名	感染 「正しい血液培養の採り方」 *5月・6月と同内容です。 講師:戸川温先生(腫瘍・血液・感染症内科助教、感染制御部) 小林加奈江先生(感染管理認定看護師)	腫瘍センター ミーティング室 (本館1階)
第9回	1月31日(火)	17:00～18:00	全職員 50名	安全 「抗がん剤の被爆防止」 講師:内山将信先生(がん専門薬剤師)	多目的室
第10回	2月14日(火)	17:00～18:00	全職員 30名	感染 「N95マスクの正しい着用 シールテスト」 *8月と同内容です 講師:小林加奈江先生(感染管理認定看護師)	多目的室
第11回	2月17日(金)	17:00～18:00	全職員 40名	安全 「閉鎖式気管吸引法の正しい手順」 *11月と同内容です 講師:安倍朋子(集中ケア認定看護師) ハリヤードヘルスケアインク担当者	多目的室
第12回	3月6日(月)	17:00～18:00	全職員 50名	安全 「転倒予防」 講師:藤田政臣先生(理学療法士) 濱松美香先生(医療安全管理部)	リハビリ室 (西別館2階)

主催：医療安全管理部、感染制御部

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 【機関名】日本医療機能評価機構 【時 期】平成 26 年 1 1 月 2 2 日付け 認定継続	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要 近隣の地域に対する情報発信として、各種セミナーを開催している。 1 つ目は、医療連携の促進・強化を目的として、福岡市医師会及び城南区医師会との共催で行う「福岡大学病院メディカルセミナー」と糸島医療圏の医療関係者を対象とした「糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会」を開催している。 このセミナーは、各診療科の診療技術や研究内容、病院として取り組んでいる医療体制等について、当院の医師が講演やパネルディスカッションを行うもので年 6~7 回開催している。 2 つ目は、地域の一般市民を対象とした「学んで予防! 《福大病院 健康セミナー》」である。 このセミナーは、城南区役所や城南保健所、城南校区の自治協議会や公民館の協力のもと、地域の皆さまが知りたいと思っている「健康や病気の予防」をテーマに、当院の医師と城南区医師会推薦の医師との協同で毎月 1 回開催しており、各回 300 名を越える地域の皆さまの参加があり好評を得ている。 3 つ目は、地域がん診療拠点病院として、がん患者やそのご家族、そして一般市民を対象に「福岡大学病院がんセミナー」を開催している。	

このセミナーは、がん治療の最前線の情報や各種がんの診療・治療・手術等の診療技術に関すること、また、がん治療中の薬物療法や食事療法、治療中の社会生活に関することなど、がんについてあらゆる知識や情報を発信している。

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無

有・無

・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要

2科以上の診療科がセンターとして外来診療を行っている。

「腎・泌尿器・膠原病センター」→腎臓・膠原病内科、泌尿器科

「消化器センター」→消化器内科、消化器外科

「呼吸器センター」→呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科

「女性診療センター」→産婦人科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科

「皮膚科・形成外科・美容医療センター」→形成外科、皮膚科

「ハートセンター」→循環器内科、心臓血管外科

「小児医療センター」→小児科、小児外科